

令和2年度第1回牧之原市地域公共交通会議 次第

日 時 令和2年8月27日（木）

午後1時30分～

会 場 牧之原市役所榛原庁舎 4階会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 報告

（1）令和元年度評価報告書について

（2）計画における数値目標の達成状況について

4 協議

（1）相良営業所の移転について

5 閉 会

委員名簿

職 名	氏 名	出欠
牧之原市 副市長	横山 裕之	欠席
地区長会 会長	種茂 和男	
牧之原市消費者協会 会長	杉林 宣子	
牧之原市商工会 副会長	条田 一郎	
(一社) まきのはら産業・地域活性化センター 所長	小栗 弘行	
牧之原市社会福祉協議会 事務局長	大石 朗	
牧之原市新交通検討会議 委員	鈴木 弘美	
公募市民	増田 知志	
公募市民	柴田 新太郎	
中部運輸局静岡運輸支局 首席運輸企画専門官	江間 綾子	
静岡県 交通基盤部都市局 地域交通課 課長	仲野 弘己	欠席
主任	長田 清孝	代理
しずてつジャストライン(株) 運行企画部長兼輸送計画室長	藁科 孝佳	
東海タクシー(株) 代表取締役	大塚 弘子	
榛南交通(株)(梅田交通グループ) 執行役員	長尾 文生	欠席
営業所責任者	鳥田 勝久	代理
一般社団法人静岡県バス協会 専務理事	堀内 哲郎	
ジャストライン労働組合 書記長	山田 裕一	
静岡県 島田土木事務所 企画検査課 課長	築地 正文	欠席
工事第3課 課長	望月 敏弘	代理
牧之原市 建設部長	飯塚 一日	欠席
建設部 建設課長	池田 武	代理
静岡県警察本部 牧之原警察署交通課長	中村 健吾	
学識経験者	伊豆原 浩二	
南山大学総合政策学部 教授	石川 良文	
牧之原市 企画政策部長	辻村 浩之	
牧之原市 教育文化部長	内山 卓也	欠席
教育文化部 社会教育課長	八木 康仁	代理
牧之原市 健康福祉部長	河原崎 貞行	欠席
健康福祉部 社会福祉課長	横山 和久	代理
牧之原市 産業経済部長	田形 正典	欠席
産業経済部 観光課長	福代 英正	代理
事務局		
地域振興課 課長	萩原 貴憲	
地域振興課 空港交通係 係長	吉國 徳倫	
総括主任	増田 隆助	

牧之原市地域公共交通網形成計画

令和元年度評価報告書

令和2年7月

牧 之 原 市

(10) 事業及び実施主体・スケジュール

計画期間の平成 30 年度から平成 34 年度の 5 年間で実施する事業を、3つの基本方針ごとに示します。

方 針	事 業
基本方針 1： 富士山型ネットワーク 構造の形成に資する地 域公共交通ネットワー クの構築	事業 1：周辺都市との連携による路線維持
	事業 2：幹線軸（裾野部）の路線の再編
	事業 3：幹線軸（斜面部）の路線の再編
	事業 4：広域交流拠点連携軸（山頂部）の路線の創出
	事業 5：デマンド型乗合タクシーの本格運行と他地域への展開
基本方針 2： 効果的な地域公共交通 サービスの提供	事業 6：主要バス停における交通結節機能・利用環境の充実
	事業 7：高台開発に伴う交通結節機能・利用環境の充実
	事業 8：各地区の拠点となるバス停機能の充実
	事業 9：利用しやすい車両の普及
	事業 10：観光施策と連携した公共交通サービスの提供
基本方針 3： 持続可能な運行を支え る利用促進・体制強化	事業 11：市民・利用者視点に立った情報提供
	事業 12：地域住民等と連携したモビリティマネジメントの推進
	事業 13：市職員等を対象としたモビリティマネジメントの推進
	事業 14：企業と連携した職場モビリティマネジメントの推進
	事業 15：バス・タクシーの運転手確保
	事業 16：地域公共交通を支える地元組織や人材の発掘・共育
	事業 17：評価・改善を検討する組織体制の構築

令和元年度事業評価

- ① 評価対象年度：令和元年度
- ② 評価方法：年度目標に対し、次の基準により評価した
 - ◎：目標のとおり取り組めた
 - ：目標に近い形で取り組めた
 - △：取り組んだが目標は達成できなかった（他事業の進捗状況に左右されるため取り組めなかった）
 - ×：全く取り組めなかった
- ③ 評価コメント
評価の基となる R1 の取組内容や今年度以降の取組、課題について記載

事業 1：周辺都市との連携による路線維持

事業の内容

牧之原市は昼間人口比率が高く、日常的に市外からの流入が多い特徴があります。また、鉄道駅がない牧之原市では、鉄道駅までのバス路線は重要な生活の足となっており、今後も市域を跨いだ路線の維持が求められています。そのため、周辺都市と連携し、現在の乗合バス、自主運行バスについては、需要に応じた路線を維持していくように努めます。

自主運行バスの中には、平日の日中や夜、休日において、1 便あたりの利用者が少ない便がみられます。そのため、これら時間帯の便については、需要に応じた交通モードへの切り替えによる効率化を実施します。

検討にあたっては、車両や人材の効率的な配置などを含め、路線の効率化による経費削減効果を事前に十分確認するとともに、地域の足が大幅に損なわれないように配慮しながら、持続可能な運行体系の構築を目指します。

(特急) 静岡相良線は多頻度の運行であり、鉄道駅がない牧之原市にとって重要な幹線軸となっていますが、近年の利用者数は微減傾向（－6.5%減：平成 25 年度 76 万人、平成 28 年度 71 万人）にあります。そのため、沿線市町や事業者と連携し、利便向上、利用促進に努めます。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者

事業の実施年度

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
検討・調整 継続実施	検討・調整 継続実施	検討・調整 継続実施	検討・調整 継続実施	検討・調整 継続実施

R1 評価 ◎

(取組)

- ・静岡県生活交通確保対策協議会でバス路線全般を協議し、維持に努めた。
- ・乗合バス（国庫補助路線）の生産性向上を目的とした会議内で、利用促進策等を協議した。
- ・自主運行バス萩間線金谷小学校で経路変更を協議し、遠距離通学児童の通学手段を確保した。
（R2.4.1 から運行開始）
- ・市営バス鬼女・菅山線の自家用有償運送の許可を得て、遠距離通学児童の通学手段を確保した。
（R2.4.1 から運行開始）

(今年度及び今後の対応)

- ・萩間線の一部時間帯（7 時台の金谷駅→相良方面の国道 473 号 BP 倉沢 IC 入口付近）において交通渋滞が発生し、相良営業所到着が 15 分程度遅れているため、事業者、警察署、道路管理者、関係市とともに、渋滞解消に向けた方策を協議する。（案：IC 入口の右折信号の時間変更等）
- ・相良御前崎線、相良浜岡線において、一部時間帯で乗降者数 0 人の便が複数あるため、見直しを図り、適正な本数を確保するとともに、経費削減に努める。

(課題)

- ・コロナ防止対策とともに、コロナで減少した需要をどのように戻すか等の利用促進策を検討する。
- ・相良営業所移転に伴い、一部路線で経路延長等の可能性があるため、丁寧に周知していく。

事業 2：幹線軸（裾野部）の路線の再編

事業の内容

自主運行バスの相良御前崎線と相良浜岡線は、現在国道 150 号を運行しているため、住宅集積地からバス停までは距離があり、住民からは住宅集積地近くを通過する経路への変更が求められています。そのため、相良御前崎線と相良浜岡線は、日中など一部時間帯において、車両の小型化と併せ住宅集積地域を通過する経路への変更を、実施に向け検討します。

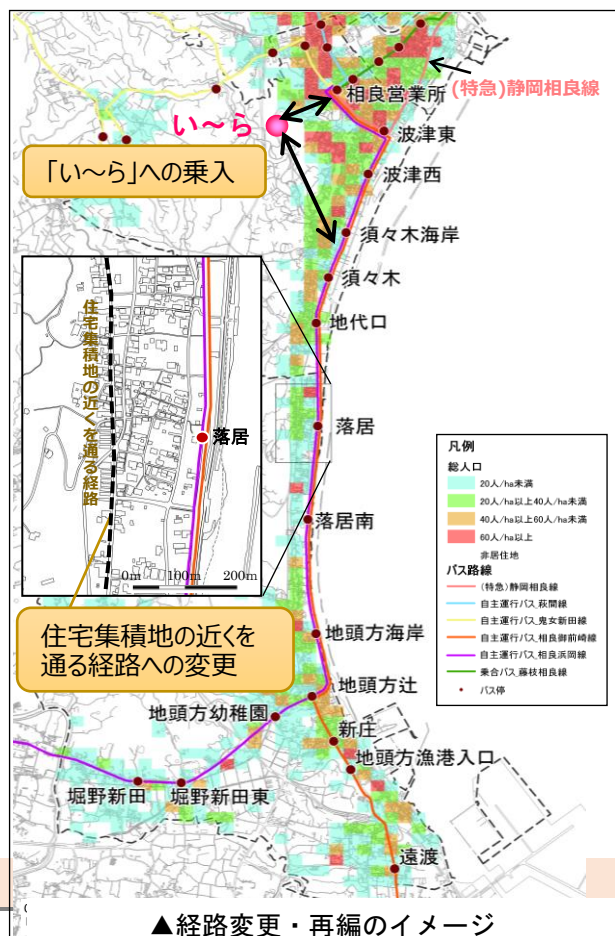
また、市民の集いの場である相良総合センター「い〜ら」は現在バス路線が乗り入れておらず、市内各地からのアクセス性を高められるよう相良御前崎線と相良浜岡線の経路変更と併せ「い〜ら」への乗り入れについても検討します。

さらに、地頭方や須々木地区は、相良御前崎線と相良浜岡線の2路線が運行していますが、路線の効率化を行いつつ、相良の中心部や静岡方面へのアクセス性向上や高校生の通学利便性向上に資する路線再編を検討します。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者

事業の実施年度



H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
検討	検討	調整	実施	実施

R1 評価 △

（取組）

- 相良御前崎線について、住宅集積地への運行経路変更を検討中。
- 経路変更に合わせて「相良総合センターい〜ら」の乗り入れを検討中。（い〜らと旧道を結ぶ須々木大溝線が令和 2 年 4 月に開通）

（今年度及び今後の対応）

- 御前崎市との協議を開始し、相良御前崎線、相良浜岡線の両路線の方向性を検討する。
- 地頭方地区地域協議会を設置したため、地元意見も参考に協議する。

（課題）

- 道路幅が狭くバス車両の運行が困難な箇所があるため、運行方法（車両や経路）は要検討。
- 計画では R3 実施となっているが、地元意見や事業者、関係市との調整に時間を要するため、予定をずれ込む可能性がある。

事業3：幹線軸（斜面部）の路線の再編

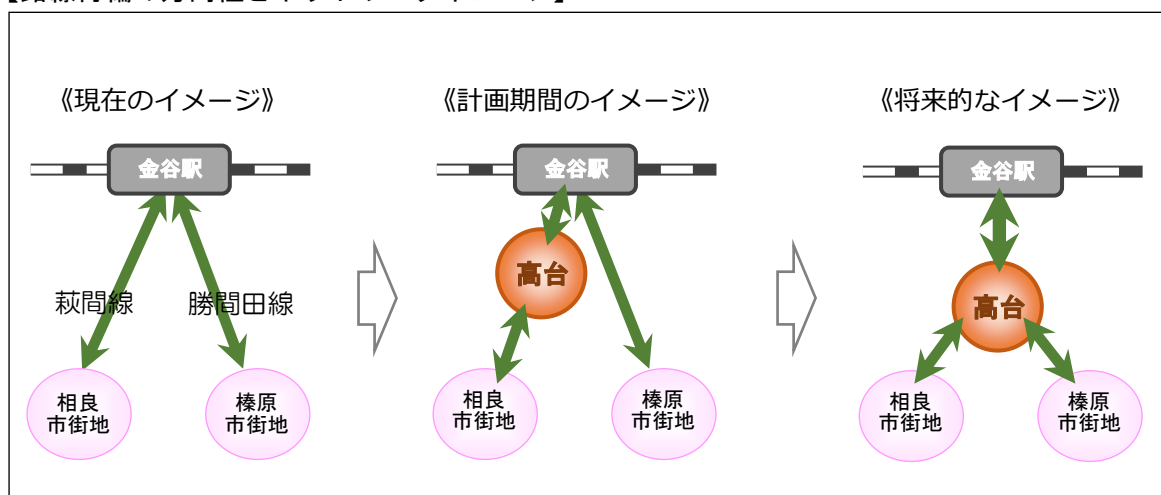
事業の内容

富士山型ネットワーク構造の斜面部を運行する自主運行バスの萩間線と勝間田線の長期的な再編としては、高台の交通結節点の整備に合わせ、両路線を乗り入れ、金谷駅と高台間の路線の充実を目指します。

本計画期間内では、交通結節点の機能充実（事業7）を進め、金谷駅と高台間、高台と相良市街地間の路線分割を検討します。

現在各路線が担っている通勤や通学等の需要を改善後も確実に取り込むとともに、小学生の通学需要については利便性が低下しないように配慮します。なお、路線再編の具体的内容及び時期については、高台開発プロジェクトの状況に大きく影響することから、適宜、進捗を把握しながら検討を進めます。

【路線再編の方向性とネットワークイメージ】



事業の実施主体

牧之原市、バス事業者

事業の実施年度

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
検討・調整	検討・調整	検討・調整	実施	実施

注) 高台開発プロジェクトの進捗に合わせ実施

R1 評価 △

- ・高台の事業進捗について引き続き情報収集、担当課との協議を実施する。（計画策定時から高台開発について大きな動きはない）

事業４：広域交流拠点連携軸（山頂部）の路線の創出

事業の内容

高台開発プロジェクトにより、市外からの流入が増えることが想定される中、現時点では牧之原市と西部方面を結ぶ路線はありません。そこで、高台開発プロジェクトの事業進捗と合わせ、高台と西部方面を結ぶ路線の創出を検討します。

また、搭乗者数が増加している富士山静岡空港の効果を市内に波及させるために、富士山静岡空港と高台や鉄道駅を結ぶ路線の創出について、需要に応じた交通モードを検討します。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、タクシー事業者

事業の実施年度

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
検討・調整	検討・調整	検討・調整	試験運行	本格運行

注）高台開発プロジェクトの進捗に合わせ実施

R1 評価 ○

（取組）

- ・空港への移動需要を調査するため、令和元年 6 月の開港記念イベント、令和 2 年 2 月の富士山の日イベントに併せて、無料送迎バスを運行した。（※ただし、利用者は前年度に比べ大きく減少した。特に 2 月は新型コロナの影響あり）

（今年度及び今後の対応）

- ・空港の賑わいを取り戻すためにも、イベントに合わせた無料送迎バス運行を計画する。

（課題）

- ・西部方面を結ぶ路線について、高台開発プロジェクトの進捗に大きな動きがないため検討中。

事業5：デマンド型乗合タクシーの本格運行と他地域への展開

事業の内容

平成29年10月から坂部地区において試験運行を実施しているデマンド型乗合タクシー「さかべ号」の本格運行に向け、問題点を改善しつつ利用促進を図っていきます。具体的には牧之原市や坂部地域協議会、タクシー事業者が、利用者の声を把握し、改善を図っていきます。また、利用者の口コミや地域コミュニティによる利用促進を図るとともに、目的地となる施設における帰りの便の予約を協力してもらうなど、利用しやすい環境を整えていきます。

また、試験運行の結果を踏まえ、タクシー事業者への影響や導入効果を把握し、公共交通空白地域や住民ニーズが高い地域等へのデマンド型乗合タクシーの導入を推進します。他地域への導入にあたっては、既存のバス路線を活かしつつ、タクシー事業者への影響を十分考慮し、公共交通全体として最適な形を検討します。

事業の実施主体

牧之原市、坂部地域協議会、タクシー事業者

事業の実施年度

【さかべ号】

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
試験運行	本格運行	本格運行	本格運行	本格運行

R1 評価 ◎

- 計画では、R1に本格運行に移行する予定であったが、吉田町への乗り入れ要望に応えるため、試験運行を1年間延長し、R2.4月から本格運行に移行した。

【他地区への展開】

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
検討・試験運行	試験運行	試験運行	本格運行	本格運行

R1 評価 ◎

（取組）

- 平成30年10月から勝間田地区を運行する「かつまた号」が運行を開始
- 平成31年2月から菅山地区を運行する「すげやま号」が運行を開始
- 令和2年2月から萩間地区を運行する「はぎま号」が運行を開始

（今年度及び今後の対応）

- 本年6月に地頭方地区での地域協議会を発足。今年度中に乗合タクシーの導入を予定。
- 昨年度地域協議会を立ち上げた牧之原地区で、今年度中に自家用有償運送による乗合タクシー（バス）を導入予定。
- 現在試験運行中のかつまた号、すげやま号は、令和3年から本格運行へ移行する予定。
- 榛原・相良の両市街地へ将来的な乗合タクシー導入を検討するため、区民の移動調査を実施、集計中。

（課題）

- 市街地におけるバス路線と乗合タクシーの併用について検討を要する。

事業 6：主要バス停における交通結節機能・利用環境の充実

事業の内容

乗換情報や路線網図など複合的な情報提供を行うために、バスロケーションシステムの表示板を設置し、分かりやすい情報提供に努めます。市内の主要バス停のうち相良営業所と静波海岸入口は平成 30 年 3 月にバスロケーションシステムの表示板が設置され、榛原総合病院は平成 30 年度中に設置される予定です。

また、パークアンドライド駐車場の整備やバス相互の乗り継ぎがしやすいように時刻調整等を行い、交通結節機能を高めるとともに、待合空間の環境改善などを行い、利用者の快適性を高めていきます。

各バス停の整備内容は以下のとおりです。

▼主要バス停の整備内容

主要バス停	整備内容
相良営業所	・バスロケーションシステムの導入 ・自主運行バスと(特急)静岡相良線の乗り継ぎ時刻の調整 ・パークアンドライド駐車場を周辺に整備
静波海岸入口	・バスロケーションシステムの導入 ・都市計画道路の整備に伴う待合所の改築、駐車場の検討
榛原総合病院	・バスロケーションシステムの設置

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者

事業の実施年度

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
検討・一部実施	検討・一部実施	実施	実施	実施

R1 評価 ○

(取組)

- ・平成 31 年 1 月に、榛原総合病院バス乗り場へのバスロケーションシステムを導入済み
- ・令和 2 年 2 月に、榛原総合病院待合にバスロケーションシステムを導入済み

(今年度及び今後の対応)

- ・現在の相良営業所若しくは新しい相良営業所に待合となる上屋や駐輪場などを整備予定。
- ・静波海岸入口の都市計画道路の工事進捗を常時確認し、経路変更を視野に協議していく。

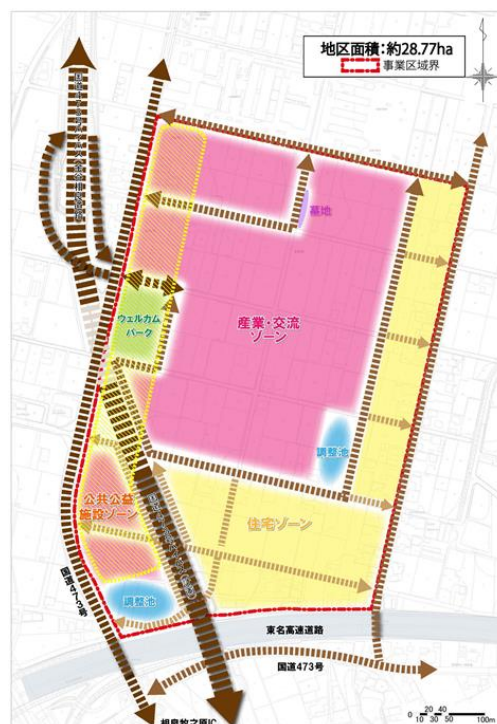
(課題)

- ・パークアンドライド駐車場の用地確保について、引き続き検討中。

事業7：高台開発に伴う交通結節機能・利用環境の充実

事業の内容

「広域交流拠点」の形成を目指す高台開発プロジェクトでは、各方面からのアクセス性と乗り継ぎ利便性を高めるよう、高台開発プロジェクトの進捗状況と調整を図りながら、交通結節点の整備を進めます。交通結節点では、バス相互の乗り継ぎがしやすい環境整備やダイヤ調整など、ハード・ソフト両面での機能の充実を図ります。また、交通結節点は、賑わい施設や周辺の住宅へのアクセスが良く、周辺道路からのアクセス性が高い場所へ設置するよう調整を図ります。



※基本構想図は確定したものではなく、イメージです

▲高台開発構想図

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、高台開発事業者

事業の実施年度

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
検討・調整	検討・調整	検討・調整	検討・調整	実施

注) 高台開発プロジェクトの進捗に合わせ実施

R1 評価 △

- 高台の事業進捗について引き続き情報収集、担当課との協議を実施する。(計画策定時から高台開発について大きな動きはない)

事業8：各地区の拠点となるバス停機能の充実

事業の内容

高齢者等にとって利用しやすい公共交通にするために、病院や買物施設などの目的地施設との協働により、快適な待合環境の整備を進めます。

地区の拠点となっている公民館近くのバス停や利用者の多いバス停を、拠点バス停として位置付け、待合環境の整備を進めます。

その他のバス停周辺の設備の設置、維持・管理に関しては、地域における各主体と協議しながら役割分担を定めるなど、市民・バス事業者・行政の協働により進めていきます。

事業の実施主体

牧之原市、市内の目的地施設、バス事業者、市民

事業の実施年度

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
検討	検討	実施	実施	実施

R1 評価 △

（取組）

・ 萩間線経路変更に伴う「水呑バス停」の設置、鬼女・菅山線運行に伴い、新規にバス停を設置したが、拠点バス停の整備は実施できなかった。

（今年度及び今後の対応）

- ・ 小学生が利用する自主運行バス萩間線の水呑バス停の待合施設の整備（街路灯設置の要望あり）。
- ・ 新相良営業所建設に伴い、現相良営業所へ向かう経路上の「ミルキーウェイ」周辺にバス停の設置を検討したい。

（課題）

- ・ 路線再編を計画しているため、過剰な投資を回避し、将来的な路線を見据え計画する。

事業 9：利用しやすい車両の普及

事業の内容

牧之原市内を運行するバス車両は、低床車両への切り替えを順次進めています。今後も高齢者や障がい者、車イス利用者にとって利用しやすいよう、地域公共交通バリア解消促進等事業などを活用し、低床バス車両の導入をバス事業者とともに進めていきます。

また、ユニバーサルデザイン（UD）タクシー※¹車両についてもタクシー事業者とともに普及促進を図ります。

※1：ユニバーサルデザイン（UD）タクシーとは、健康な方はもちろんのこと、足腰の弱い高齢者、車いす使用者、ベビーカー利用の親子連れ、妊娠中の方など、誰もが利用しやすいみんなにやさしい新しいタクシー車両であり、街中で呼び止めてもよし予約しても良しの誰もが普通に使える一般のタクシーです。（UDタクシー研究会ホームページより）

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、タクシー事業者

事業の実施年度

H30	H31（R1）	H32（R2）	H33（R3）	H34（R4）
実施	実施	実施	実施	実施

R1 評価 △ （取組）

- ・デマンド乗合タクシーの配車時に UD タクシーを使用した場合、委託料に UD 加算を実施中。
- ・産業フェアでの低床バス展示を予定していたが、田沼意次侯生誕 300 年記念祭のため、展示スペースが確保できず、実施できなかった。

（今年度及び今後の対応）

- ・R2の産業フェアは新型コロナのため中止
- ・牧之原地区の乗合タクシー（バス）については、中部電力から貸与される車椅子付き福祉車両を活用する。
- ・地頭方地区デマンド乗合タクシーの地元説明の際には、UD車両を用いた説明を実施する。

事業 10：観光施策と連携した公共交通サービスの提供

事業の内容

観光周遊行動は牧之原市のみならず周辺市町も含めた行動が想定されます。そこで、観光客の広域的な移動実態を捉え、交通事業者と連携し、公共交通サービスや乗継情報などを提供することにより、観光目的の公共交通需要の掘り起こしを行います。

また、平成 28 年 12 月から運行を開始した渋谷ライナーは、牧之原市に住み続けながら、首都圏との往来をしやすくする重要な路線であるとの認識のもと、観光目的の利用者への補助制度の検討や観光客向けの交通マップへの記載など、観光施策と連携した取組みを実施します。

▼具体的事業（案）

具体的事業（案）
・公共交通を利用した観光地へのアクセス方法や時刻表、観光地の情報等を記載したマップの作成（外国人向け含む） ・公共交通を利用したモデルルート、旅行プラン等の情報提供 ・イベント時に公共交通の利用特典を付与する取組み ・レンタサイクル事業の展開や車内への自転車持込など自転車と連携した取組み ・観光目的の利用者への補助制度の検討

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、タクシー事業者、観光協会

事業の実施年度

H30	H31（R1）	H32（R2）	H33（R3）	H34（R4）
検討	実施	実施	実施	実施

R1 評価 ○

（取組）

- ・田沼事業の藤枝相良線沿線の風景写真コンテストを開催した。

（今年度及び今後の対応）

- ・風景写真コンテストの写真展示により、藤枝相良線を PR する。（時期未定）

（課題）

- ・今夏は海水浴場が閉鎖となったが、秋頃開業予定のウェーブプールを活用した公共交通の利用促進策の検討。
- ・運休中の渋谷ライナーは、新型コロナにより活用は難しい。

事業 11：市民・利用者視点に立った情報提供

事業の内容

市内のバス路線は、目的地までのバス情報が分かりづらい状況にあります。そこで、バス事業者や市のホームページ、広報紙などを活用し、市民や利用者にとって分かりやすい情報を提供します。

具体的には、牧之原市民にとって、分かりやすい公共交通マップの作成や、高齢者や特定地域の住民など対象者別にカスタマイズした公共交通マップを作成し配布します。また、高校進学を控えた市内の中学生に向け、バスを使った学生生活のリーフレットなどを作成・配布し、公共交通による通学を促進していきます。各種マップやリーフレットの作成は、対象者が自ら作成するなど、市民協働による取り組みを検討します。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、各中学校、各高校

事業の実施年度

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
実施	実施	実施	実施	実施

※公共交通マップについては路線再編後に作成

R1 評価 ○

（取組）

- ・ 広報特集記事やHP にバス、乗合タクシーの情報を掲載し発信した。
- ・ デマンド乗合タクシー導入済み地区に、利用状況を周知する「〇〇号ニュース」を配布した。

（今年度及び今後の対応）

- ・ 藤枝相良線の風景写真コンテストの結果を活用し、沿線の見どころを加えたチラシを作成予定
- ・ 中学生向けの高校通学手段を記載したチラシを作成予定
- ・ 広報 10 月号に特集記事を掲載予定（新相良営業所の紹介、変更点の周知）

（課題）

- ・ 効果的な周知方法の検討

事業 12：地域住民等と連携したモビリティマネジメントの推進

事業の内容

牧之原市が市政運営の一つの柱として掲げる「対話による協働のまちづくり」の手法を公共交通分野にも応用し、市民協働により公共交通の利用促進を図っていきます。

利用者が少なければ地域公共交通は維持できないといった危機感を市民と共有し、市民自らが乗って守る行動を誘発していきます。また、児童や学生、高齢者を対象に、公共交通の大切さや乗り方、マナーを教えるバスの乗り方教室の継続や、産業フェアなどイベント時にバス車両の展示やバス事業を紹介することにより、バスを身近に感じてもらう取組みを推進します。さらに、バス停が近くにある施設と連携し、市民の外出促進や健康増進とセットになったバス利用促進策を実施します。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、バス協会、バス停沿線施設

事業の実施年度

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
検討	実施	実施	実施	実施

R1 評価 ○

（取組）※数値目標の達成状況についてを参照

- 取組人数は、田沼事業でスペースが確保できなかったことによる低床バス展示が中止となったため、減少したが、取組項目は増えた。
- 藤枝相良線沿線の風景写真コンテストを開催し、藤枝相良線の利用促進を図った。

（今年度及び今後の対応）

- 産業フェアでの低床バス及びUD タクシーを展示。（令和3年度以降）
- 各地区サロンでの乗合タクシーの周知。
- 風景写真コンテストの写真展示により、藤枝相良線をPR する。（時期未定）

（課題）

- イベント自粛の中での効果的な取組を検討したい。

事業 13：市職員等を対象としたモビリティマネジメントの推進

事業の内容

牧之原市は相良と榛原の都市拠点にそれぞれ市役所庁舎があり、その間は(特急)静岡相良線と藤枝相良線が運行しています。そこで、庁舎間の移動については、(特急)静岡相良線や藤枝相良線を活用するよう市職員へ意識啓発を図るとともに、庁舎間のバス専用の時刻表の作成や、会議等の時間をバスの時間帯に合わせるなど、市職員一丸となった利用促進を実施します。また、市職員の公共交通による通勤についても検討します。

庁舎勤務以外の市内で働く職員に対しても取組みを展開していきます。

事業の実施主体

牧之原市

事業の実施年度

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
実施	実施	実施	実施	実施

R1 評価 ○

(取組)

- ・R1 利用者数・・・58人（H30利用者数102人）

(今年度及び今後の対応)

- ・職員研修の実施（公共交通の現状や今後の方向性等を職員に向けて説明）

(課題)

- ・バス利用が一部部署に偏っており、全庁的な取組になっていない。

事業 14：企業と連携した職場モビリティマネジメントの推進

事業の内容

牧之原市は大規模な事業所が多く立地しており、これまでも市内の主要な企業と従業員のバス利用について意見交換をしてきました。引き続き、企業とコミュニケーションを図りながら、有効な施策展開について検討し、バスの利用促進に向けた基盤を構築します。また必要に応じて、自主運行バスの経路、時間帯の変更や、バスを利用することで企業にもメリットがある仕組みを検討します。

企業の通勤用送迎バスについては、適宜企業と情報交換を行い、相互の問題点等を共有するとともに、送迎バスの有効活用について、企業と連携し検討を進めます。また、高齢者や障がい者の雇用促進に伴う通勤環境の整備についても、各企業と連携し検討を進めます。

事業の実施主体

牧之原市、市内企業、バス事業者、タクシー事業者

事業の実施年度

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
検討	実施	実施	実施	実施

R1 評価 × (取組)

- ・目立った取り組みは無し。

(今年度及び今後の課題)

- ・企業との定期的な情報交換を実施する。

(課題)

- ・豊富な通勤者の移動を取り込めておらず、具体的な手段について検討を要する。
- ・新型コロナの影響や働き方改革で、通勤需要の見通しが立たない。

事業 15：バス・タクシーの運転手確保

事業の内容

バスやタクシーの運転手不足により、サービス提供自体を縮小せざるを得ない状況が将来想定されます。そこで、運転手の確保に向け、バスやタクシー事業の魅力と社会的な重要性を周知する方策を検討します。

具体的には、女性や若年層を対象に路線バスの仕事の内容のPRや、地元出身者や女性運転手の活躍状況をPRするなど、バスやタクシー事業の魅力を交通事業者とともに伝えていきます。また、牧之原市産業雇用支援ネットワークを活用し産業側と労働力提供側のマッチングや、窓口の紹介、説明会の開催など採用に繋がる取組みを実施します。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、タクシー事業者、ハローワーク

事業の実施年度

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
実施	実施	実施	実施	実施

R1 評価 ○

（取組）

- ・ 牧之原市産業雇用ネットワークを開催、バス事業者は継続して参加している。

（今年度及び今後の対応）

- ・ 10月号で予定している広報特集記事にて運転手募集欄を設けて運転手確保を支援する。

（課題）

- ・ 事業者に対する効果的な支援を検討する。

事業 16：地域公共交通を支える地元組織や人材の発掘・共育

事業の内容

地域の実情に応じた路線の確保や利用促進を図るため、区や町内会など各地域において、公共交通に関する検討の場を設け、地域の公共交通の問題点や情報の共有を図ります。

地域の主体的な取り組みにあたっては、地域を先導するキーパーソンが不可欠であるため、その地域の核となる人材を発掘するなど、市や交通事業者と共に育つ関係を構築します。

坂部地区での事例

「さかべ号」が試験運行されている坂部地区では、住民が坂部地域協議会を組織し、アンケート調査の実施や定期的な検討会議を開催しています。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、タクシー事業者、区・町内会

事業の実施年度

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
実施	実施	実施	実施	実施

R1 評価 ◎

(取組)

	協議会	設置時期	R1 開催回数
①	坂部地区地域協議会	H29	1
②	勝間田地区地域協議会	H30	1
③	菅山地区地域協議会	H30	2
④	萩間地区地域協議会	R1	3
⑤	牧之原地区地域協議会	R1	1
⑥	地頭方地区地域協議会	R2	—

(今年度及び今後の対応)

- ・ 牧之原区・・・R1.6月に勉強会を開催。7月に地域協議会を開催した。
- ・ 地頭方地区・・・R2.6月に地域協議会を開催した。
- ・ 既存の地域協議会の定期的な開催。

(課題)

- ・ 特になし。

事業 17：評価・改善を検討する組織体制の構築

事業の内容

本計画に位置づけた事業を着実に実施・評価・改善していくために、地域公共交通会議の下部組織として市民、交通事業者、行政が参画する「評価改善部会」を組織し、事業改善に繋げるような提言を行う体制を構築します。

路線バスについては、バス事業者と連携し、利用状況の分析等を行い、効率的な運行計画を検討します。

自主運行バスについては、関係市町とOD調査を実施し、区間別・時間帯別の利用状況を分析することで、次年度の運行計画の検討に役立てており、今後も引き続き調査・分析を行います。

タクシーの利用者数についても、タクシー事業者の協力を得ながらデータを取得し、経年変化等の利用状況を分析し、事業展開の参考とします。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、タクシー事業者

事業の実施年度

H30	H31 (R1)	H32 (R2)	H33 (R3)	H34 (R4)
部会の設置	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施

R1 評価 ◎

（取組）

- ・H30.11月に部会を設置。

（今年度及び今後の対応）

- ・地域公共交通網形成計画の評価組織として、継続的に開催していく。

（課題）

- ・特になし。

(11) 事業評価結果一覧

計画期間の平成 30 年度から平成 34 年度の 5 年間で、以下のスケジュールに従って事業を進めていきます。

		R 1 評価	R 1 取組	R2以降の取組
基本方針 1：富士山型ネットワーク構造の形成に資する地域公共交通ネットワークの構築				
事業	1：周辺都市との連携による路線維持	◎	・萩間線金小系統で経路を変更し、牧小児童の通学手段を確保した。 ・市営バス鬼女・菅山線の運行を協議、菅小児童の通学手段を確保した。	・相良御前崎線、相良浜岡線において、運行本数の見直しを図り、適正な本数を確保するとともに、経費削減に努める。(R2)
	2：幹線軸（裾野部）の路線の再編	△	・相良御前崎線の住宅集積地への運行経路変更を検討中 ・相良総合センターい〜らへの乗り入れのための運行経路変更を検討中	・車両を含めた課題の洗い出しを関係者ととともに協議する。 ・上記と並行して地元との協議を開始する。
	3：幹線軸（斜面部）の路線の再編	△	※高台開発のプロジェクトの進捗状況を確認中	
	4：広域交流拠点連携軸（山頂部）の路線の創出	○	・空港イベントに併せた無料送迎バスの運行 (R1.6、R2.2)	・空港イベントに併せた無料送迎バスの運行（時期未定 コロナの状況）
	5：デマンド型乗合タクシーの本格運行と他地域への展開	◎	・さかべ号は、かつまた号、すげやま号の試験運行 ・はぎま号の試験運行開始	・さかべ号の本格運行、かつまた号、すげやま号、はぎま号の試験運行継続 ・牧之原区、地頭方地区への乗合タクシー（バス）の導入 (R2)
基本方針 2：効果的な地域公共交通サービスの提供				
事業	6：主要バス停における交通結節機能・利用環境の充実	○	・榛原総合病院バス乗り場へのバスロケーションシステム設置	・現相良営業所か新相良営業所に待合となる上屋や駐輪場などを整備予定 (R2)。
	7：高台開発に伴う交通結節機能・利用環境の充実	△	※高台開発のプロジェクトの進捗状況を確認中	
	8：各地区の拠点となるバス停機能の充実	△	萩間線経路変更に伴う「水呑バス停」の設置、鬼女・菅山線運行に伴い、新規にバス停を設置	・萩間線の水呑バス停の待合施設の整備（街路灯設置の要望あり）。(R2) ・新相良営業所建設に伴い、現相良営業所へ向かう経路上の「ミルキーウェイ」周辺にバス停の設置を検討したい。
	9：利用しやすい車両の普及	○	・デマンド乗合タクシーの UD タクシー使用時の委託料加算 ・産業フェアでの低床バス展示	・牧之原地区の乗合タクシー（バス）での車椅子付き福祉車両の活用 (R2) ・地頭方地区乗合タクシーの地元説明での UD 車両の説明。(R2)
	10：観光施策と連携した公共交通サービスの提供	○	・田沼街道を走る藤枝相良線沿線の風景写真コンテストの開催	・田沼街道を走る藤枝相良線沿線の風景写真コンテストの写真展示 (R2)
基本方針 3：持続可能な運行を支える利用促進・体制強化				
事業	11：市民・利用者視点に立った情報提供	○	・広報特集記事や HP による情報発信。 ・乗合タクシー導入済み地区に、利用状況を周知するチラシを配布。	・藤枝相良線風景写真コンテストの結果を加味した見所チラシを作成 (R2) ・広報 10 月号に特集記事を掲載予定（新相良営業所の紹介、変更点の周知）
	12：地域住民等と連携したモビリティマネジメントの推進	○	・田沼街道を走る藤枝相良線沿線の風景写真コンテストの開催	・各地区サロンでの乗合タクシーの周知。(R2) ・風景写真コンテストの写真展示により、藤枝相良線を PR する。(R2)
	13：市職員等を対象としたモビリティマネジメントの推進	○	・職員の庁舎間バス移動を実施	・職員研修の実施
	14：企業と連携した職場モビリティマネジメントの推進	×	・目立った取り組みは実施できなかった	・適宜、情報交換を実施
	15：バス・タクシーの運転手確保	○	・牧之原市産業雇用支援ネットワークにバス事業者が参加	・ネットワークの継続実施
	16：地域公共交通を支える地元組織や人材の発掘・共育	◎	・坂部、勝間田、菅山、萩間の地域協議会の定期開催	・牧之原区、地頭方地区で、乗合タクシー導入等の地域協議会を開催 ・既存の地域協議会の定期的な開催。
	17：評価・改善を検討する組織体制の構築	◎	・部会の設置、開催	・継続して実施

牧之原市地域公共交通網形成計画における数値目標の達成状況について
(R1 評価)

牧之原市地域振興課

以下、計画の目標を抜粋

(12) 計画の目標

本計画の目標と評価指標を設定します。また、目標については、基本方針1～3のいずれに該当するかを明記します。

□目標1：地域公共交通の利用者数の維持・減少割合の抑制

基本方針1 基本方針2 基本方針3

ネットワークの形成と合わせ、利用しやすいサービスの提供により、利用者数を確保し、持続可能な運行を目指します。なお、高台開発プロジェクトに伴う路線の再編を想定しているため、再編が行われた際に評価指標の見直しを行うものとしします。

評価指標	平成29年度		平成34年度
評価指標1-1:乗合バスの年間利用者数	357,094 人/年	維持	357,000 人/年
評価指標1-2:自主運行バスの年間利用者数※	177,934 人/年	維持	177,000 人/年

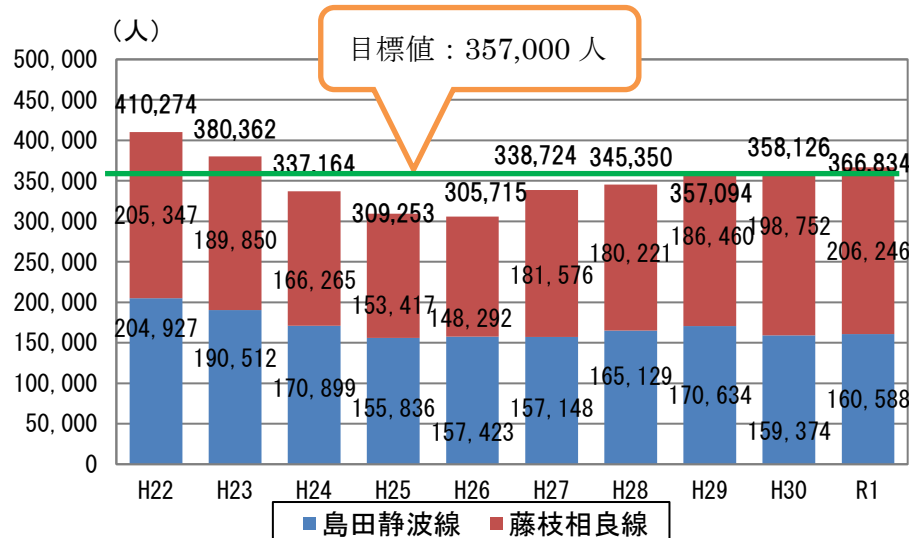
※乗合バス、自主運行バスの年間利用者数は、平成28年度の利用者数

実績

評価指標	令和元年度	評価
評価指標1-1:乗合バスの年間利用者数	366,834 人/年	○
評価指標1-2:自主運行バスの年間利用者数	168,008 人/年	×

※年間利用者数は、令和元年度は30年度の利用者数

指標1-1の経年変化



指標1-1 考察

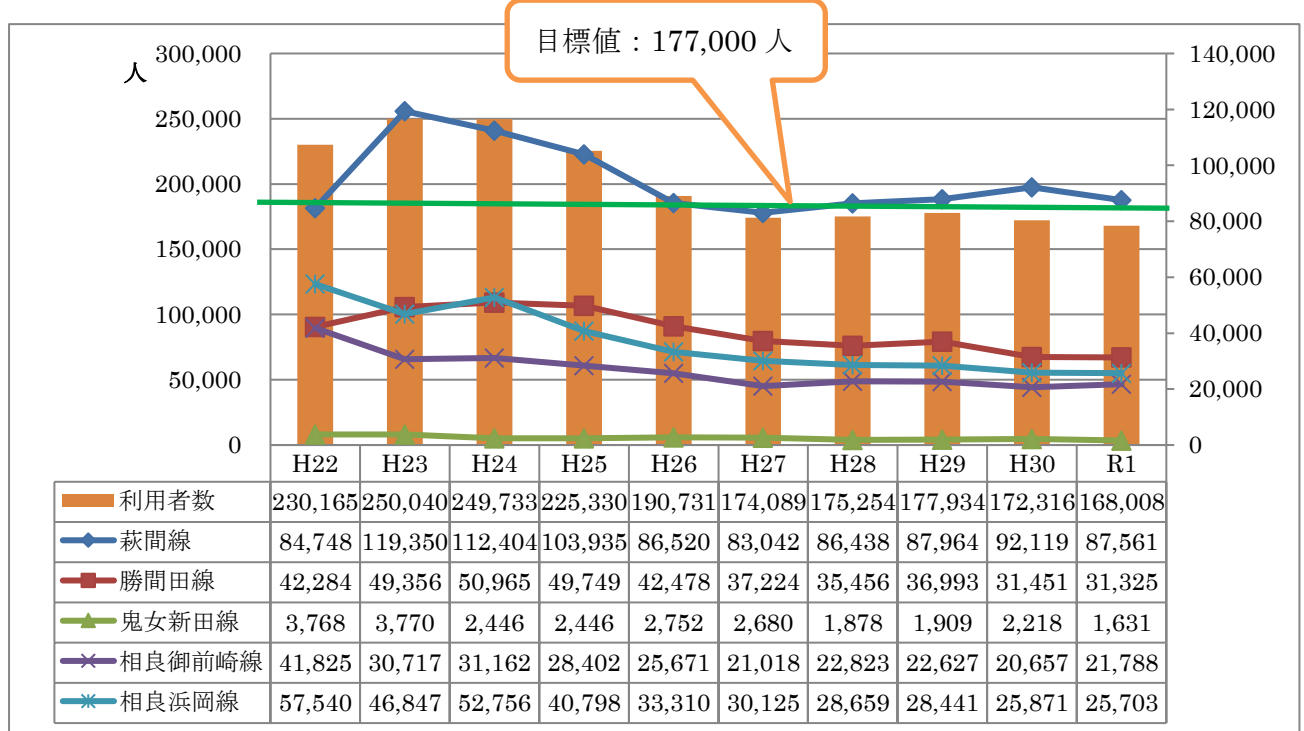
・H25～H29の5年で、島田静波線は15万7千人～15万9千人で推移しているが、藤枝相良線は14万8千人から19万8千人と大幅に増加している。
・藤枝相良線のH26からの増加理由としては、H26.4月に大井川高校と吉田高校の統合に伴い、清流館高校が開校し、吉田高校の学生がバス利用に移行したためと考えられる。

H30とR1の比較

・藤枝相良線：約3.7%増 ・島田静波線：約0.7%増 ・2路線合計：約2.4%増

■維持の目標は達成しているため、引き続き事業者、関係市と連携し、利用促進を図る。

指標 1－2 の経年変化



指標 1－2 考察

- ・ここ数年は、減便や時刻改正等は実施しておらず、H26以降は17万人台を推移していたが、R1で16万人台に減少した。

H30とR1の比較

- ・萩間線：約2.5%減
- ・勝間田線：約0.4%減
- ・鬼女新田線：約26.5%減
- ・相良御前崎線：約5.5%減
- ・相良浜岡線：約0.6%減
- ・5路線合計：約**2.5%減**

■各路線の特性を踏まえ、路線再編を進めることで利用促進を図る。

■各路線の特性

萩間線：矢崎等の通勤の大人利用が多く、近年は増加傾向にある。

勝間田線：小学生の利用が8割を占め、児童数の影響を受けやすい。

鬼女新田線：相良小通学児童のみ。R1途中から通学タクシーに移行、現在は鬼女・菅山線に変更。

(※ただし表中のR1は実際にはH30)

相良御前崎線：相良高校通学利用が7割を占め、相高生の影響を受けやすい。

相良浜岡線：他の路線に比べ、通院（御前崎市立病院）、買い物（マックスバリュ）の利用が多い。

□目標 2：路線維持に向けた運行の効率化 基本方針 3

収支率が低いバス路線の改善を図り、持続可能な公共交通体系の構築を目指します。
収支率は減少傾向にありますが、効率的な運行による運行経費の維持・削減に努めるとともに、利用促進を図り、収支率を維持します。

評価指標	平成 29 年度		平成 34 年度
評価指標 2-1:乗合バスの収支率	49.4%	維持	49.4%
評価指標 2-2:自主運行バスの収支率※	25.0%	維持	25.0%

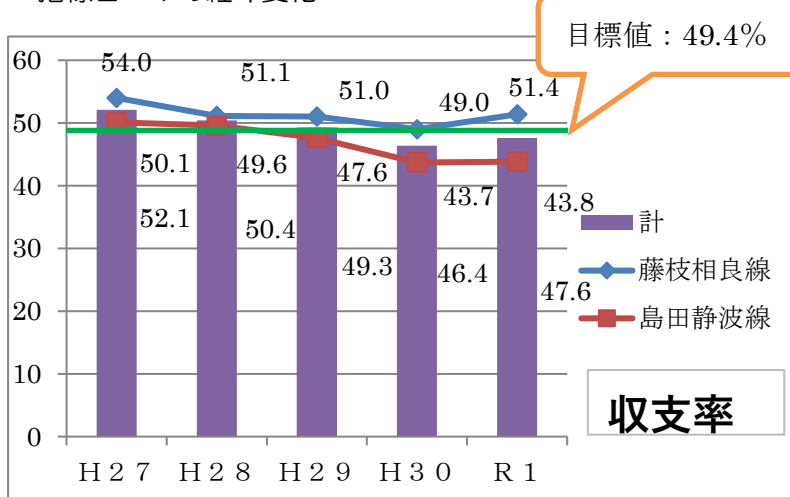
※自主運行バスの収支率は、平成 28 年度の収支率

実績

評価指標	令和元年度	評価
評価指標 2-1:乗合バスの収支率	47.6%	△
評価指標 2-2:自主運行バスの収支率	19.9%	×

※自主運行バスの収支率は、令和元年度は 30 年度の収支率

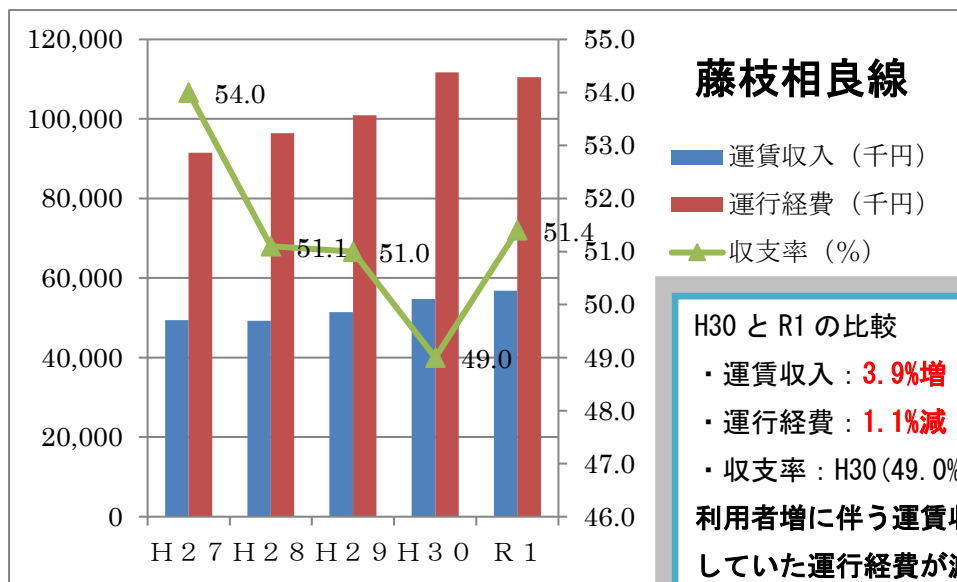
指標 2-1 の経年変化



考察

- ・島田静波線は横ばい、藤枝相良線は利用者増から上昇したため、2 路線合計では若干改善したため評価は△とした。
- ・運賃収入は、利用者増を背景に微増傾向にあるが、運行経費が H27 と比較し約 2 割弱増加しているため、収支率は減少傾向にある。

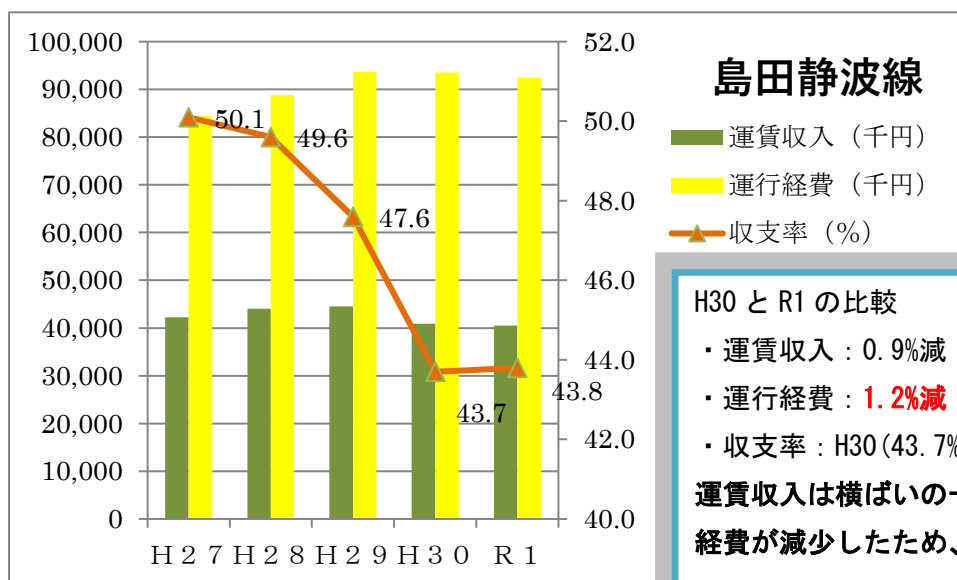
年度別収支率	路線	運賃収入 (千円)	運行経費 (千円)	収支率 (%)
R1 (H30. 10～ R1. 9)	藤枝相良線	56,846	110,540	51.4
	島田静波線	40,527	92,457	43.8
H30 (H29. 10～ H30. 9)	藤枝相良線	54,714	111,720	49.0
	島田静波線	40,907	93,551	43.7
H29 (H28. 10～ H29. 9)	藤枝相良線	51,451	100,890	51.0
	島田静波線	44,556	93,703	47.6
H28 (H27. 10～ H28. 9)	藤枝相良線	49,260	96,441	51.1
	島田静波線	44,086	88,829	49.6
H27 (H26. 10～ H27. 9)	藤枝相良線	49,403	91,519	54.0
	島田静波線	42,282	84,441	50.1



H30 と R1 の比較

- ・ 運賃収入 : **3.9%増**
- ・ 運行経費 : **1.1%減**
- ・ 収支率 : H30 (49.0%) → R1 (51.4%) **2.4%増**

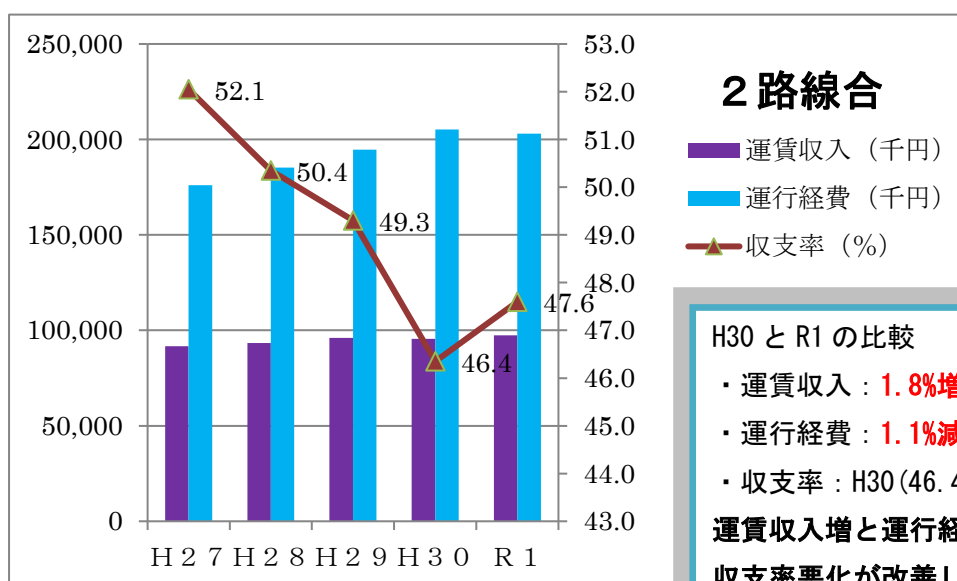
利用者増に伴う運賃収入の増加の一方、上昇していた運行経費が減少したため、収支率は改善した。



H30 と R1 の比較

- ・ 運賃収入 : 0.9%減
- ・ 運行経費 : **1.2%減**
- ・ 収支率 : H30 (43.7%) → R1 (43.8%) **0.1%増**

運賃収入は横ばいの一方、上昇していた運行経費が減少したため、収支率は改善した。



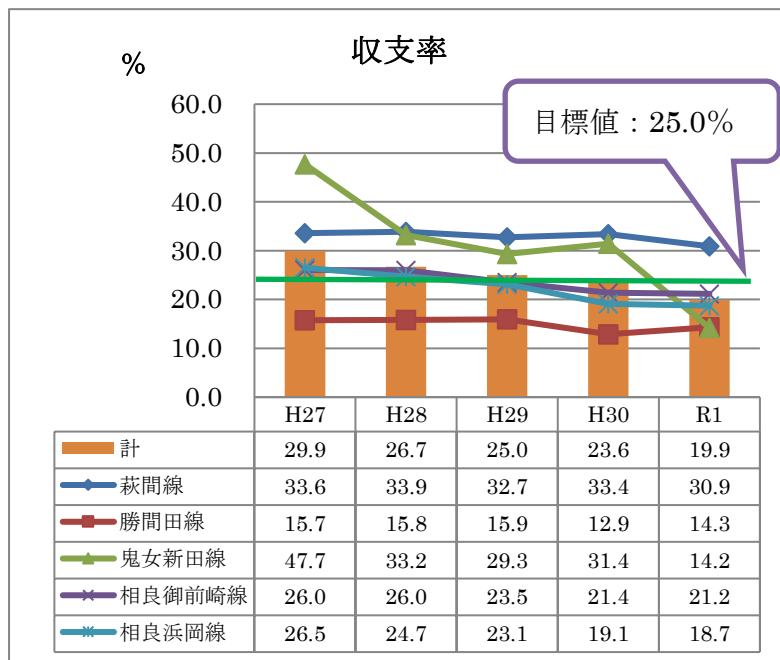
H30 と R1 の比較

- ・ 運賃収入 : **1.8%増**
- ・ 運行経費 : **1.1%減**
- ・ 収支率 : H30 (46.4%) → R1 (47.6%) **1.2%増**

運賃収入増と運行経費の抑制により、近年の収支率悪化が改善した。

■引き続き事業者、関係市と連携し、利用促進を図りつつ、経費抑制策について事業者と協議していく。

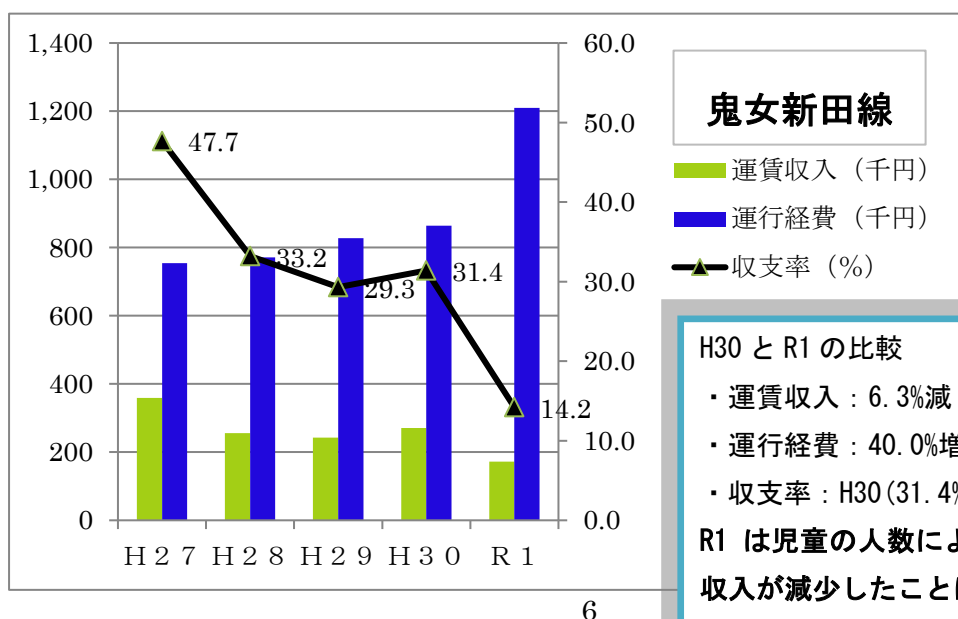
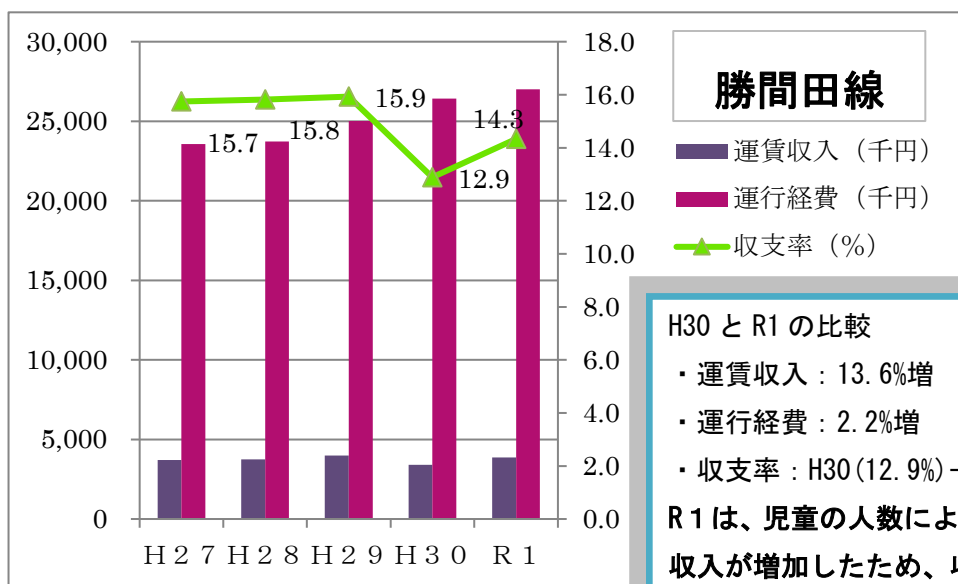
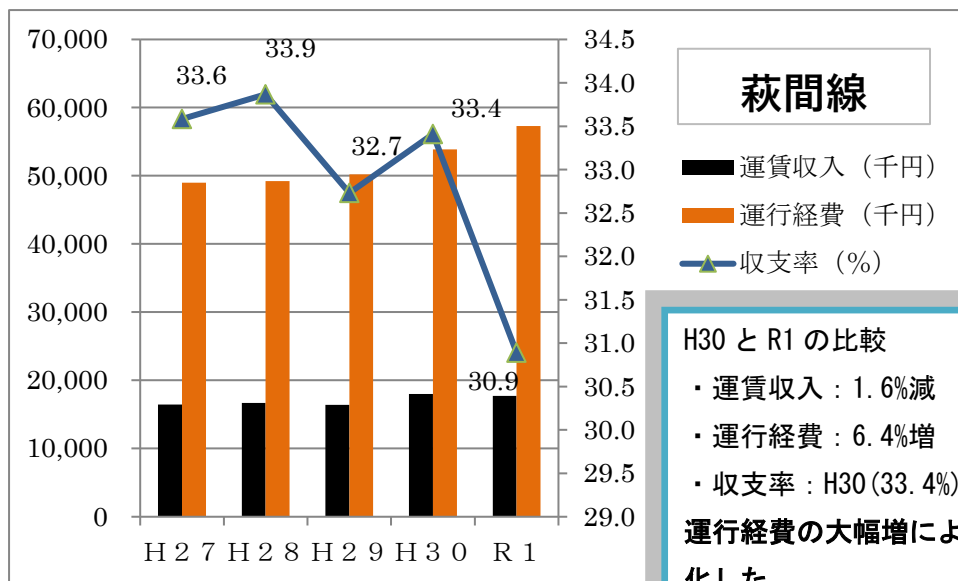
指標２－２の経年変化

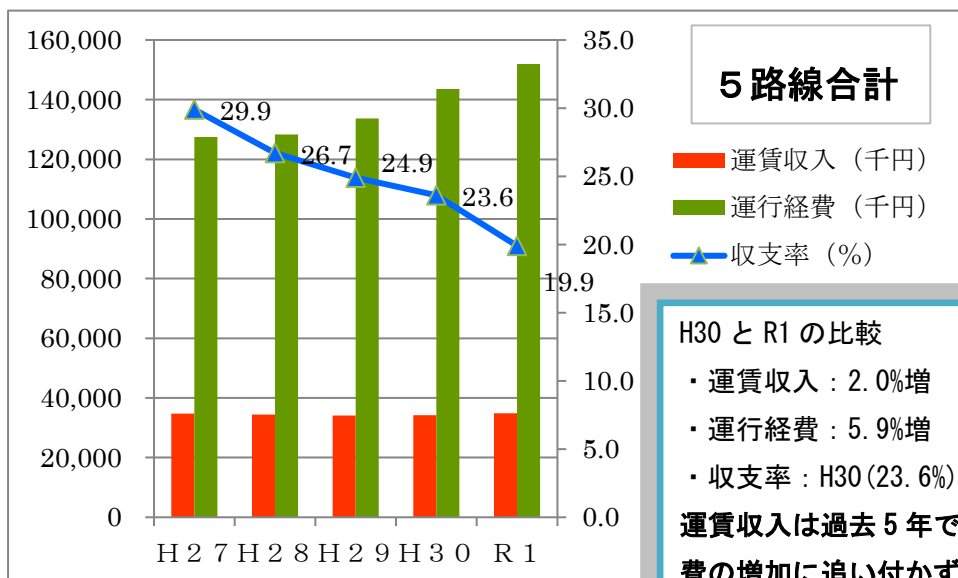
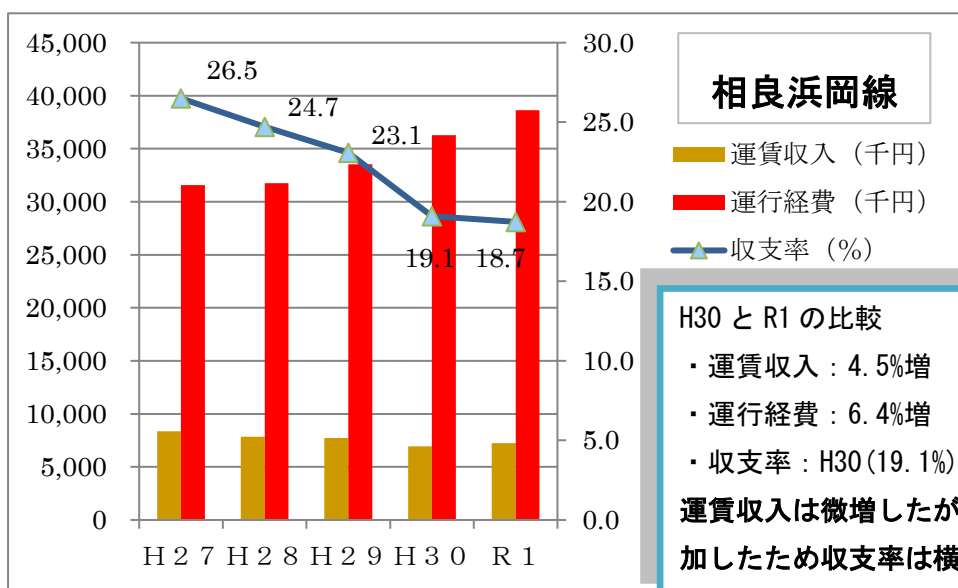
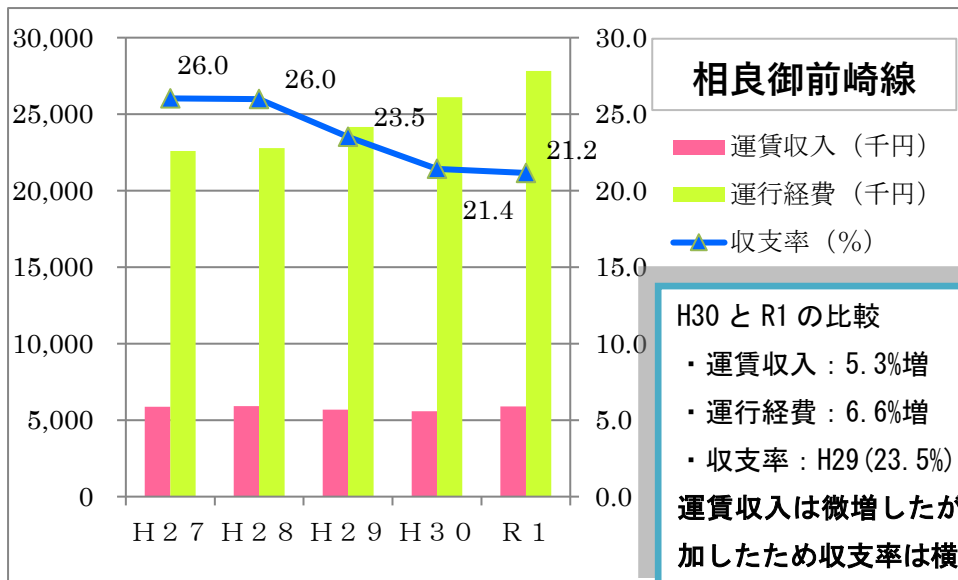


考察

- ・**萩間線**：30%台を推移している。
大人の利用者が多いため、他路線に比べ収支率は高い。
- ・**勝間田線**：小学生の利用が多いため、収支率は低い。
- ・**鬼女新田線**：小学生のみ利用するため、児童の人数によって大きく変化する。
- ・**相良御前崎線**：日中帯で乗降者数0人の便が複数あるが、御前崎市や市内地頭方地区の相良高校生が終点の相良営業所まで長距離乗ることで、通学時間帯に日中帯をカバーしている状況。
- ・**相良浜岡線**：通院や買い物が多いため、短距離移動の傾向にあることで収支率は高くない。

年度別		萩間線	勝間田線	鬼女新田線	相良御前崎線	相良浜岡線
R1	収入(千円)	17,703	38,688	172	5,889	7,239
	経費(千円)	57,310	27,000	1,210	27,832	38,636
	収支率(%)	30.9	14.3	14.2	21.2	18.7
H30	収入(千円)	17,996	3,405	271	5,590	6,927
	経費(千円)	53,863	26,425	864	26,105	36,278
	収支率(%)	33.4	12.9	31.4	21.4	19.1
H29	収入(千円)	16,428	3,986	243	5,684	7,737
	経費(千円)	50,191	25,023	828	24,167	33,522
	収支率(%)	32.7	15.9	29.3	23.5	23.1
H28	収入(千円)	16,679	3,753	256	5,916	7,845
	経費(千円)	49,248	23,735	771	22,775	31,765
	収支率(%)	33.9	15.8	33.2	26.0	24.7
H27	収入(千円)	16,453	3,709	359	5,884	8,363
	経費(千円)	48,993	23,557	754	22,602	31,560
	収支率(%)	33.6	15.7	47.7	26.0	26.5





□目標3：都市拠点の主要バス停における拠点性向上 基本方針2

都市拠点の主要バス停である相良営業所と静波海岸入口において、交通結節機能を高める取組みを行うことで、利用者数を維持します。

評価指標	平成 29 年度		平成 34 年度
評価指標3-1：相良営業所の利用者数	677 人/日	維持	670 人/日
評価指標3-2：静波海岸入口の利用者数	363 人/日	維持	360 人/日

※1：乗合バス、自主運行バス、(特急)静岡相良線における各バス停で乗降した利用者数

※2：乗合バスは平成 29 年度運行分の乗降調査結果より

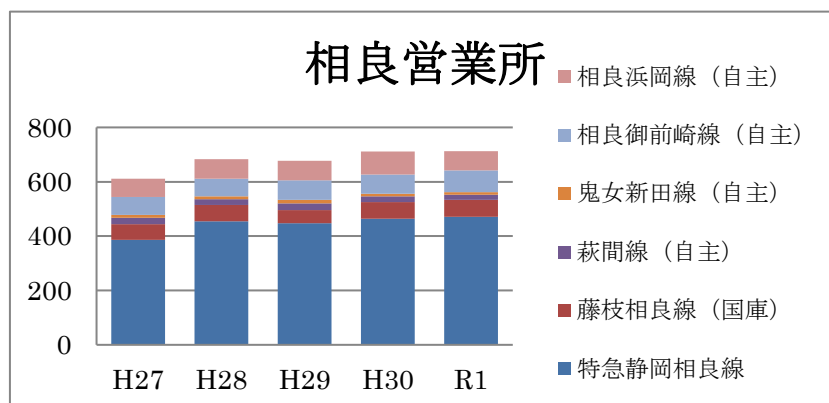
※3：自主運行バスは平成 29 年度運行分の乗降調査結果より

※4：(特急)静岡相良線はしずてつジャストライン提供の 2016 年 10 月 1 日(土)～7 日(金)の 1 週間の利用者数から一日平均利用者数を算出

実績

評価指標	令和元年度	評価
評価指標3-1：相良営業所の利用者数	712人/日	○
評価指標3-2：静波海岸入口の利用者数	330人/日	×

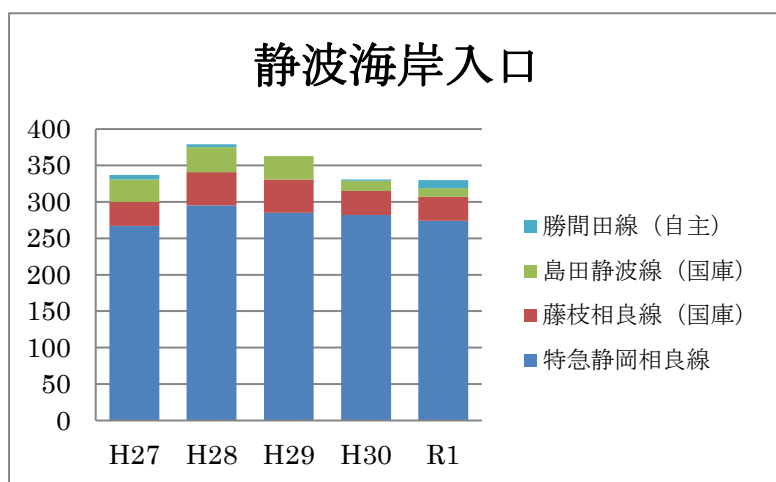
乗降者数	相良営業所（人）				
	H27	H28	H29	H30	R1
特急静岡相良線	386	455	448	464	471
藤枝相良線（国庫）	58	60	48	61	63
萩間線（自主）	23	21	25	22	18
鬼女新田線（自主）	11	11	13	9	10
相良御前崎線（自主）	66	64	71	70	80
相良浜岡線（自主）	67	72	72	85	70
合計	611	683	677	711	712



考察

- ・ 6 路線が乗り入れているが、現在は鬼女新田線廃止に伴い 5 路線。
- ・ もっとも利用者数が多い特急静岡相良線は、R1 で全体の約 66% の割合を占める。
- ・ 相良高校への通学のため、相良御前崎線、相良浜岡線も利用者数が多い。

乗降者数	静波海岸入口（人）				
	H27	H28	H29	H30	R1
特急静岡相良線	267	295	295	282	274
藤枝相良線（国庫）	33	46	46	33	33
島田静波線（国庫）	31	34	32	14	12
勝間田線（自主）	6	4	0	2	11
合計	337	379	363	331	330

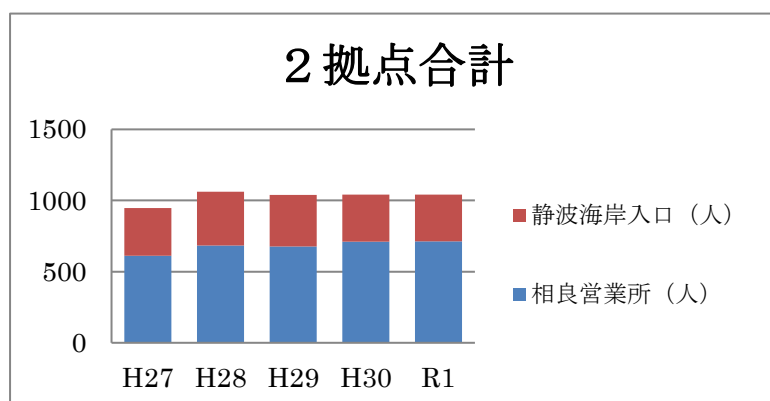


考察

- ・ 4路線が乗り入れている。
- ・ もっとも利用者数が多い特急静岡相良線は、R1 で全体の約 83%の割合を占める。
- ・ 国庫路線の 2 路線は、静波海岸入口では乗降が少ないが、榛原総合病院等の途中のバス停での乗降は多い。

2 拠点間の合計

乗降者数（人）	H27	H28	H29	H30	R1
相良営業所	611	683	677	711	712
静波海岸入口	337	379	363	331	330
2 拠点合計	948	1,062	1,040	1,042	1,042



考察

- ・ 2 拠点で毎日約 1,000 人が利用している。そのうち約 7 割が相良営業所を利用。
- ・ 5 年間での大きな変化は見られない。

H30 と R1 の比較

- ・ 乗降者数は同数であった。

■ 拠点バス停の機能向上策として、駐輪場整備や要望が強いパークアンドライド駐車場を検討する。
また、相良営業所の移転に伴い、現営業所の利便が落ちないような対策が必要となる。

目標 4：市民にとって利用しやすい公共交通施策の展開

基本方針 1 基本方針 2 基本方針 3

各種サービスの充実や市民ニーズにあった路線の改善により、市民の公共交通施策に対する満足度を高めます。

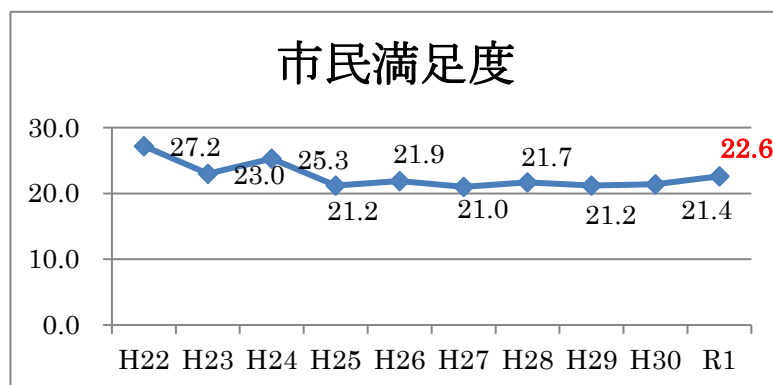
評価指標	平成 29 年度		平成 34 年度
評価指標4:公共交通の充実に対する市民満足度	21.2%※1	増加	40%※2

※1：無回答を含め、「満足」及び「やや満足」を足した割合

※2：平成 29 年度の「満足」「やや満足」に加え、「やや不満」36.7%の半数が「やや満足」へ移行することを目標とする

実績

評価指標	令和元年度	評価
評価指標4:公共交通の充実に対する市民満足度	22.6%	△

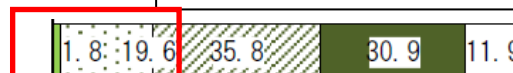


考察

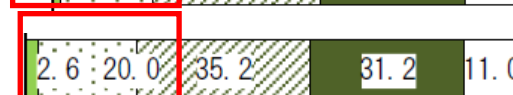
・満足度のほか、重要度も示されているが、公共交通の充実については、例年、満足度は低く重要度は高い傾向にある。

・自由意見では、例年、バス運賃改善やパークアンドライド駐車場、コミバス運行といった改善要望の意見が多い。

H30 公共交通の充実（バス交通など）



R1 公共交通の充実（バス交通など）



H30 と R1 の比較

- ・満足：0.8%増
- ・やや満足 0.4%増
- ・合計：1.2%増
- ・「満足」、「やや満足」の合計が増加したが、目標値には大きく届いていないため、△の評価とした。

■改善意見については、実現可能なものから順次改善していく。



交通に関する代表的な自由記載意見

- ・バス運賃の改善、値下げ・・・3件
- ・循環バス、コミュニティバスの運行・・・5件
- ・交通の便が悪い・・・3件
- ・営業所周辺のパークアンドライド駐車場整備・・・2件

□目標 5：地域公共交通の利用者数増加に向けた取組の充実 基本方針 3

市民、交通事業者と連携し、利用促進を推進します。

なお、取組件数を評価指標としていますが、本来、取組みを行うことで発現する効果が重要であるため、適宜、利用促進の取組みを行ったことに対する効果を計測できるように検討していきます。

評価指標	平成 29 年度		平成 34 年度
評価指標5-1:モビリティマネジメントの取組件数	5項目	増加	年間で 10 項目以上
評価指標5-2:モビリティマネジメントの取組人数	300 人	増加	年間で 400 人

実績

評価指標	令和元年度	評価
評価指標5-1 モビリティマネジメントの取組件数	12項目	◎
評価指標5-2 モビリティマネジメントの取組人数	306人	△

※ 1：取組件数は新規の取組に加え、現在の取組を充実させた件数も含める

※ 2：バスの乗り方教室など、1 つの項目（取組）で複数の回数を実施する取組もあるため、これら回数も含めた評価を行う

令和元年度実績

	取組項目	取組人数	備考
①	広報特集記事 2 ページ (R1.10)	—	公共交通の必要性を考える
②	市職員に対するバス利用促進	58人	前年度 102 人
③	バスの乗り方教室（小学生）	—（9 校）	目標設定時に不算入
④	藤枝相良線沿線の風景写真コンテスト	38人	参加者人数
⑤	デマンド乗合タクシーに係る地域協議会（坂部、勝間田、菅山、萩間、牧之原）	計 70 人（3 地域の 1 回あたりの合計人数）	坂部 13 人、勝間田 14 人 菅山 13 人、萩間 15 人 牧之原 15 人
⑥	さかべ号坂 2 町内会説明	28 人	吉田町への運行範囲拡大について
⑦	かつまた号、すげやま号会員登録者アンケート（新）	—（109 人）	目標設定時に不算入 勝間田：61 人、菅山：48 人※回答者数
⑧	地頭方地区、牧之原地区、萩間地区民の行動調査（新）	—	目標設定時に不算入
⑨	はぎま号説明会、サロンでの説明	64 人	開催回数 13 回
⑩	はぎま号出発式（新）	20 人	萩間地区役員出席
⑪	鬼女新田線（鬼女・菅山線）説明会（新）	18 人	開催回数 5 回
⑫	萩間線経路変更説明会（新）	10 人	開催回数 3 回

H30 と R1 の比較

- ・指標 5 - 1：10 項目→12 項目
- ・指標 5 - 2：497 人→306 人
- ・取組人数については、産業フェアへ出展できなかったため減少してしまったが、取組項目では 5 項目増加した。

■R2 は地頭方地区地域協議会を新設済み。

□目標6：多様な団体・組織との連携による体制強化 基本方針3

体制強化に向け、市民、交通事業者、行政など多様な主体による団体を組織し、地域公共交通に対する検討を充実させていきます。

評価指標	平成 29 年度		平成 34 年度
評価指標6:地域住民、民間企業、交通事業者、行政間など、多様な組織・団体との公共交通に関する検討会議等の団体・組織数	6団体・組織	増加	9団体・組織

実績

評価指標	令和元年度	評価
評価指標6:地域住民、民間企業、交通事業者、行政間など、多様な組織・団体との公共交通に関する検討会議等の団体・組織数	8団体・組織	○

令和元年度実績

- ① 牧之原市地域公共交通会議
- ② 牧之原市地域公共交通会議 評価改善部会
- ③ 自主運行バス連絡調整会議
- ④ 坂部地区地域協議会
- ⑤ 勝間田地区地域協議会
- ⑥ 菅山区地区地域協議会
- ⑦ 萩間地区地域協議会 **(新)**
- ⑧ 牧之原地区地域協議会 **(新)**

※ 平成 30 年度時にカウントしていた「富士山静岡空港周辺公共交通検討会」は、令和元年度では開催実績がないため、減とした。

H30 と R1 の比較

- ・ 1 団体減したが、2 団体増加したため**増加**した。

■R2 は地頭方地区地域協議会を新設済み。

デマンド乗合タクシーの現状

(令和元年度実績)

令和2年8月

地域振興課

運行内容

【利用可能者】

- 75歳以上の者
- 自動車運転免許非保有者
- 障がい者
- 要介護、要支援認定者
- 妊婦
- 市長が認めた者(一時負傷者等)

R2.4現在	登録者数
さかべ号	103名
かつまた号	115名
すげやま号	73名
はぎま号	79名

【運行頻度】

- 週2日、日8便(かつまた号のみ日10便)

【特定施設】

- 基本的には、市内の病院、スーパー、公共施設
※必要と認める場合は、病院のみ市外も指定(さかべ号のみ吉田町6病院を指定)

【運賃】

- 概ねタクシー料金の1/4(バス料金を考慮)
- お試し乗車券、10回利用割引あり

運行状況(運行開始から令和2年3月まで)

■利用状況

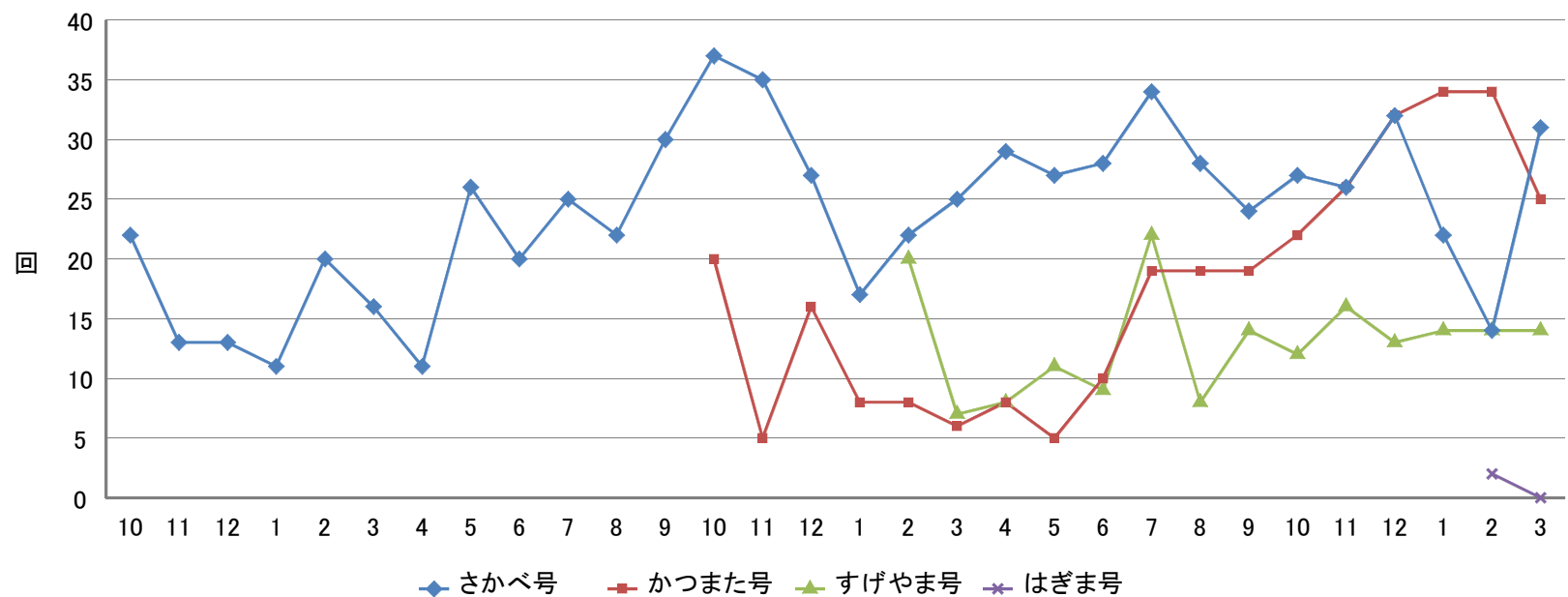
名称	運行月数 (月)	累計					月平均	
		運行便数	稼働率	利用者数	実利用者数	乗合率 (人/車)	運行便数	利用者数
さかべ号	30	714便	32.9%	975人	45人	1.37	23.80便	32.50人
かつまた号	18	316便	22.0%	444人	38人	1.41	17.56便	24.67人
すげやま号	14	182便	19.2%	233人	28人	1.28	13.00便	16.64人
はぎま号	2	2便	3.6%	2人	1人	1.00	0.03便	1.00人

■収支状況

名称	累計				月平均		
	運行経費(円)	運賃収入(円)	市負担額(円)	収支率	運行経費(円)	運賃収入(円)	市負担額(円)
さかべ号	1,480,710	446,000	1,034,710	30.1%	49,357	14,867	34,490
かつまた号	701,920	197,500	504,420	28.1%	38,996	10,972	28,023
すげやま号	385,850	77,750	308,100	20.2%	27,561	5,554	22,007
はぎま号	6,050	0	6,050	0.0%	3,025	0	3,025

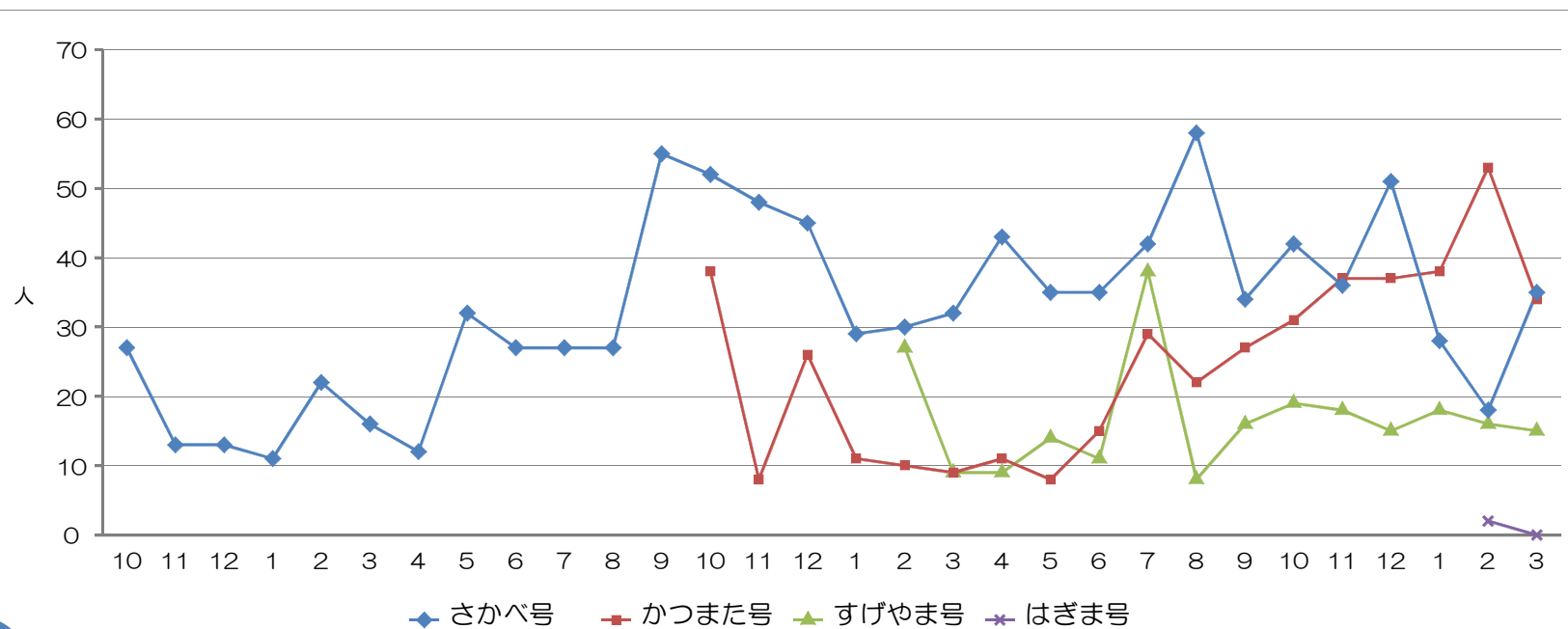
運行回数

名称	H29	H30	R1	計
さかべ号	95	297	322	714
かつまた号		63	253	316
すげやま号		27	155	182
はぎま号			2	2
計	95	387	732	1,214



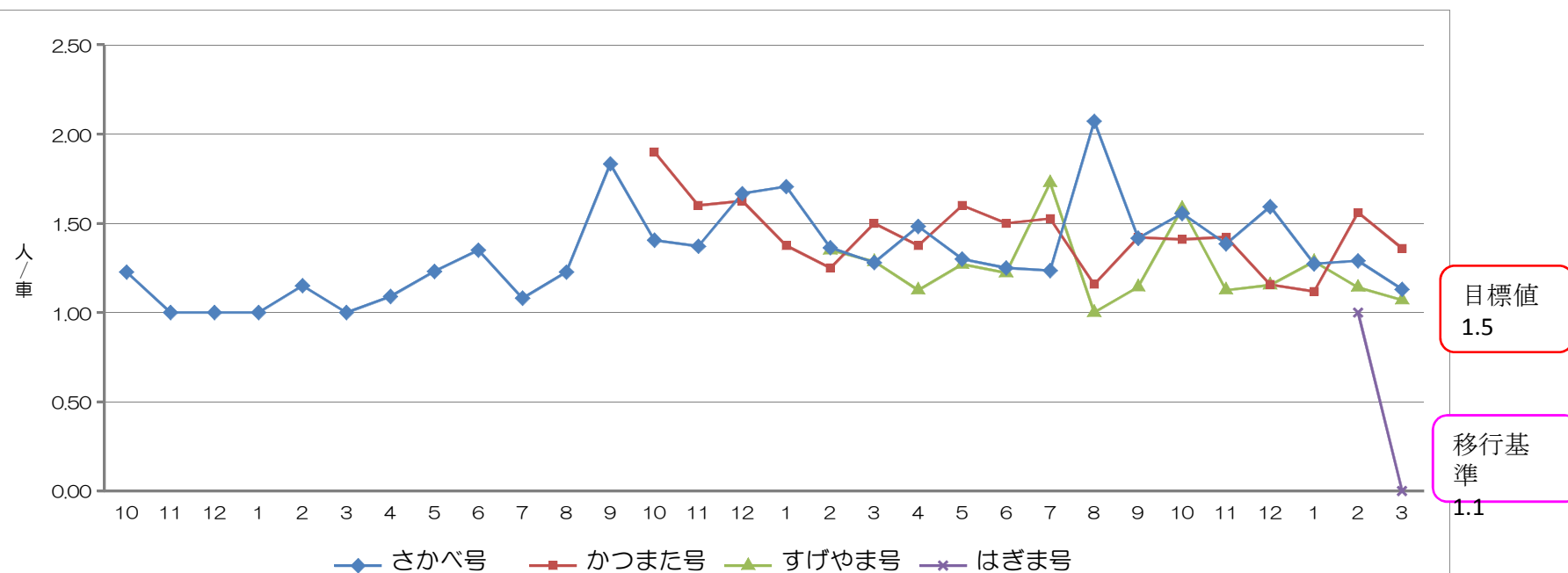
利用者推移

名称	H29	H30	R1	計
さかべ号	102	416	457	975
かつまた号		102	342	444
すげやま号		36	197	233
はぎま号			2	2
計	102	554	998	1,654



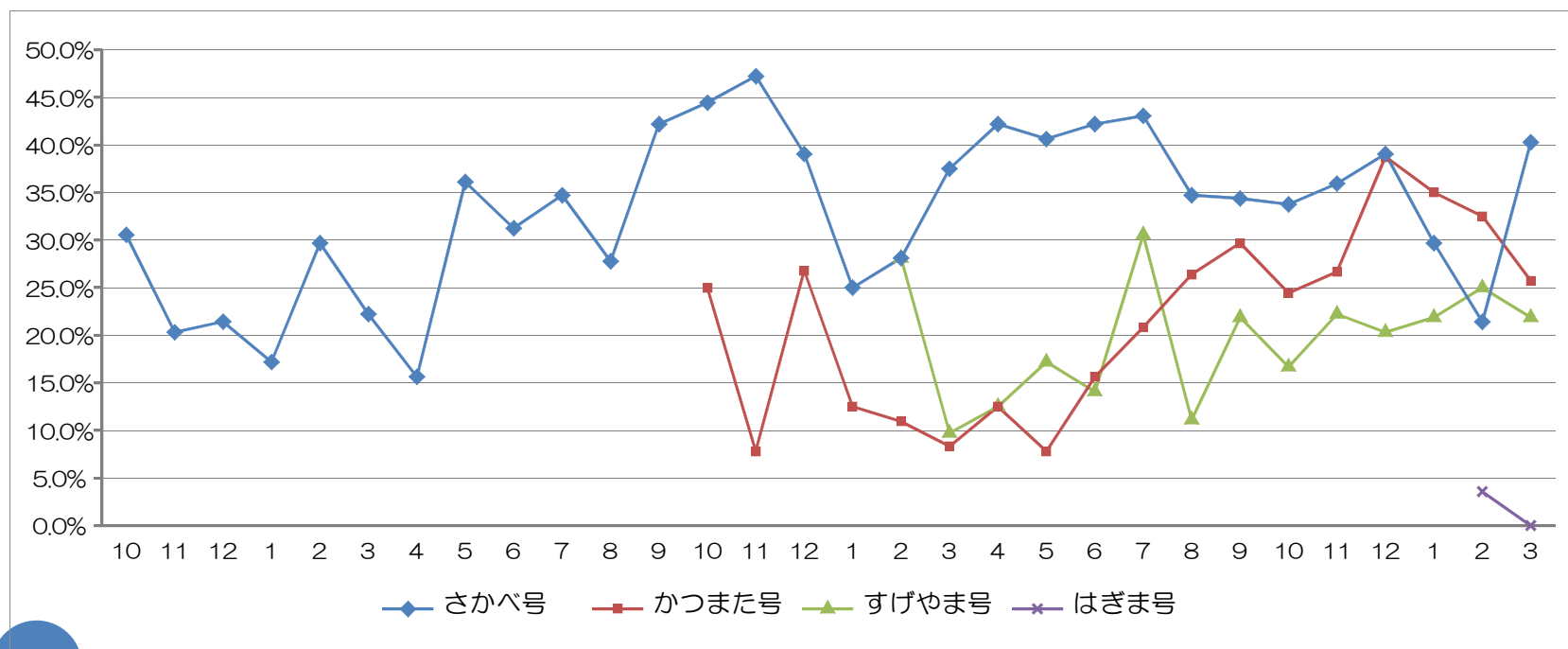
乗合率

名称	H29	H30	R1	計
さかべ号	1.07	1.40	1.42	1.37
かつまた号		1.62	1.35	1.41
すげやま号		1.33	1.27	1.28
はぎま号			1.00	1.00
計	1.07	1.43	1.36	1.36



稼働率

名称	H29	H30	R1	計
さかべ号	23.7%	34.3%	36.6%	33.2%
かつまた号		15.1%	25.3%	22.2%
すげやま号		18.4%	16.4%	19.4%
はぎま号			1.7%	1.7%
計	23.7%	27.1%	25.9%	26.1%

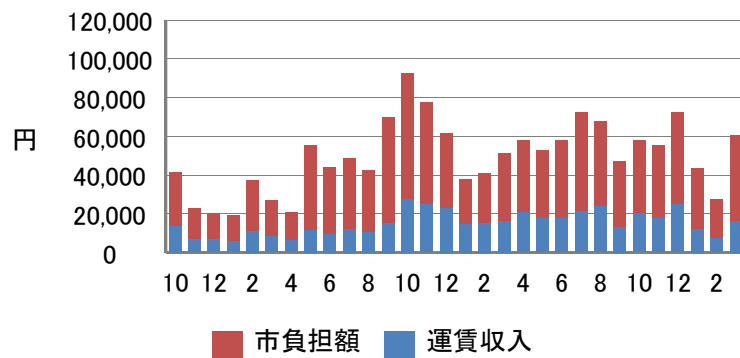


目標値
30.0%

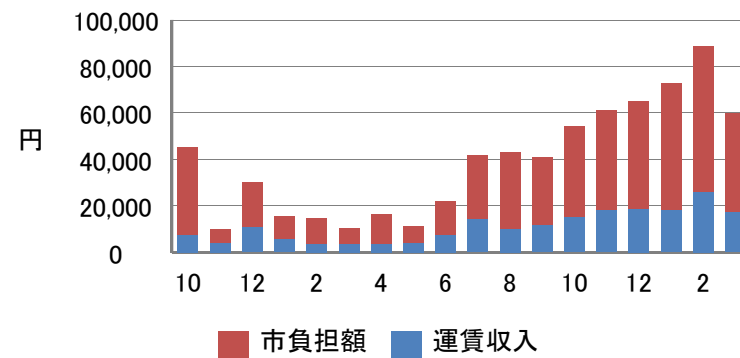
移行基
準
12.5%

運行経費の内訳

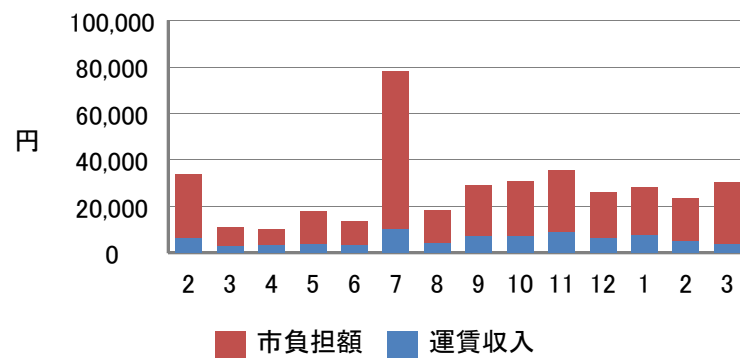
さかべ号(平成29年10月～)



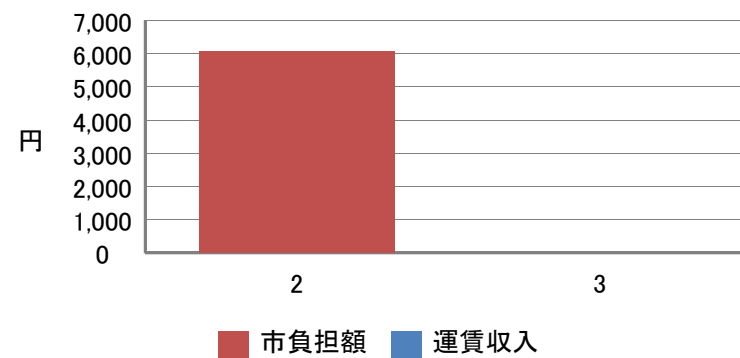
かつまた号(平成30年10月～)



すげやま号(平成31年2月～)

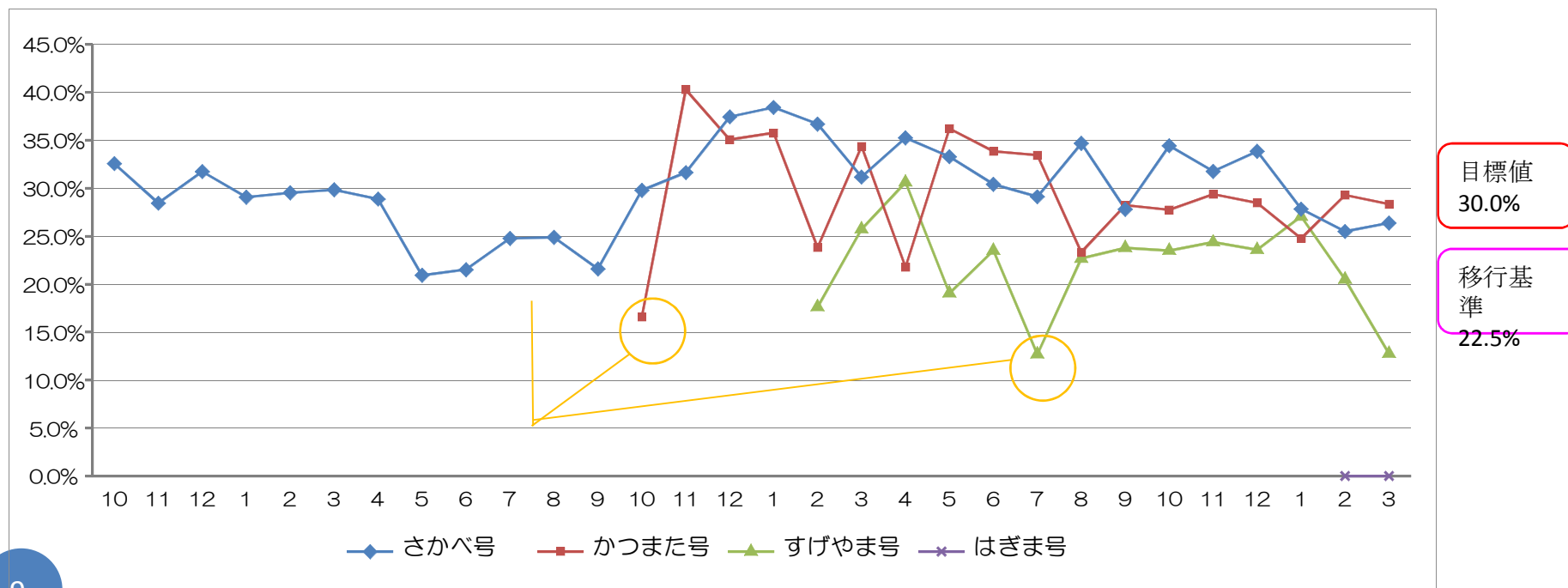


はぎま号(令和2年2月～)



収支率

名称	H29	H30	R1	計
さかべ号	30.4%	28.9%	31.3%	30.0%
かつまた号		27.5%	28.3%	27.8%
すげやま号		19.6%	20.2%	19.3%
はぎま号			0.0%	1.4%
計	30.4%	28.1%	27.7%	27.4%



事業評価

目標達成状況、アンケートの結果を検証し、試験運行期間終了3カ月前時点で、直近3カ月の利用状況で事業評価を行う。

主な指標		達成目標	本格運行移行基準
利用状況	登録者数	運行地域の75歳以上の1/3以上	なし
	利用者数	3.6人/日以上	1.1人/日以上
	稼働率	30%以上	12.5%以上
	乗合率	1.5人/便以上	1.1人/便以上
費用効率	収支率	30%以上	22.5%以上
	1人当たり経費	1,460円以下	2,000円以下
	市負担額	1,520円/便以下	1,700円/便以下

	達成目標	本格運行移行基準
登録者数	運行地域の75歳以上の1/3以上	交通弱者対策のため、登録者数は考慮しない。
実績運行回数※ (計画運行回数×利用率)	8便/日×30%=2.4便	8便/日×12.5%=1.0便
利用者数 (実績運行回数×平均乗車人数)	2.4便×1.5人/便=3.6人/日	1.0便×1.1人/便=1.1人/日
稼働率 (実績運行回数/計画運行回数)	30% 国補助金交付要件	12.5%
乗合率 (利用者数/総実績運行回数※)	1.5人 県内デマンド運行平均	1.1人 県補助金交付要件
収支率 (運賃収入/運行経費)	(500円×1.5人×0.9※)/2,200円=30%	(500円×1.1人×0.9※)/2,200円=22.5%
1人当たり経費 (運行経費※/利用者数)	2,200円/1.5人=1,466円	2,200円/1.1人=2,000円
市負担額 (運行経費－運賃収入)	2,200円－675円=1,525円/便	2,200円－495円=1,705円/便

※実績運行回数:複数配車でも1とした実績運行回数

※総実績運行回数:総ての運行した回数(複数配車の総数)

※0.9:お試し乗車券、無料券の配布による運賃収入の減少による。

※運行経費:総実績運行回数の経費

令和2年8月27日
しずてつジャストライン株式会社
運行企画部 地域交通課

相良営業所移転に伴う藤枝相良線の延伸について

国庫地域間幹線系統の藤枝相良線につきましては、ＪＲ藤枝駅から焼津市及び吉田町を経由し、牧之原市の相良営業所間を運行しております。この度、弊社の相良営業所が危機管理（津波浸水想定区域）及び施設の老朽化等の改善を理由として、本年10月に移転することに伴い、一部運行経路の変更（延伸）を実施することとなりました。

1. 運行系統の概要

申出 番号	系統名			運行本数※	現行キロ程
	始点	経由地	終点		
7	藤枝駅南口	静波海岸入口	相良営業所	平日 16.5 往復 土日祝 10.0 往復	往路 24.6km 復路 24.6km

※現在は新型コロナウイルス影響に伴う利用減少により平日の運行本数は12.0往復へ減便中

2. 運行経路の変更（延伸）

営業所移転に伴い現行キロ程と比較し約2kmの延伸となります。また、延伸区間である牧之原市大沢地区は県道沿いに店舗等が集まる商業エリアで今後利用が見込まれることから、地域住民の利便性向上を目的としてバス停を新設します。

現行キロ程	変更後キロ程	差異
往路 24.6km	<u>往路 26.6km</u>	往路+2.0km
復路 24.6km	<u>復路 26.5km</u>	復路+1.9km

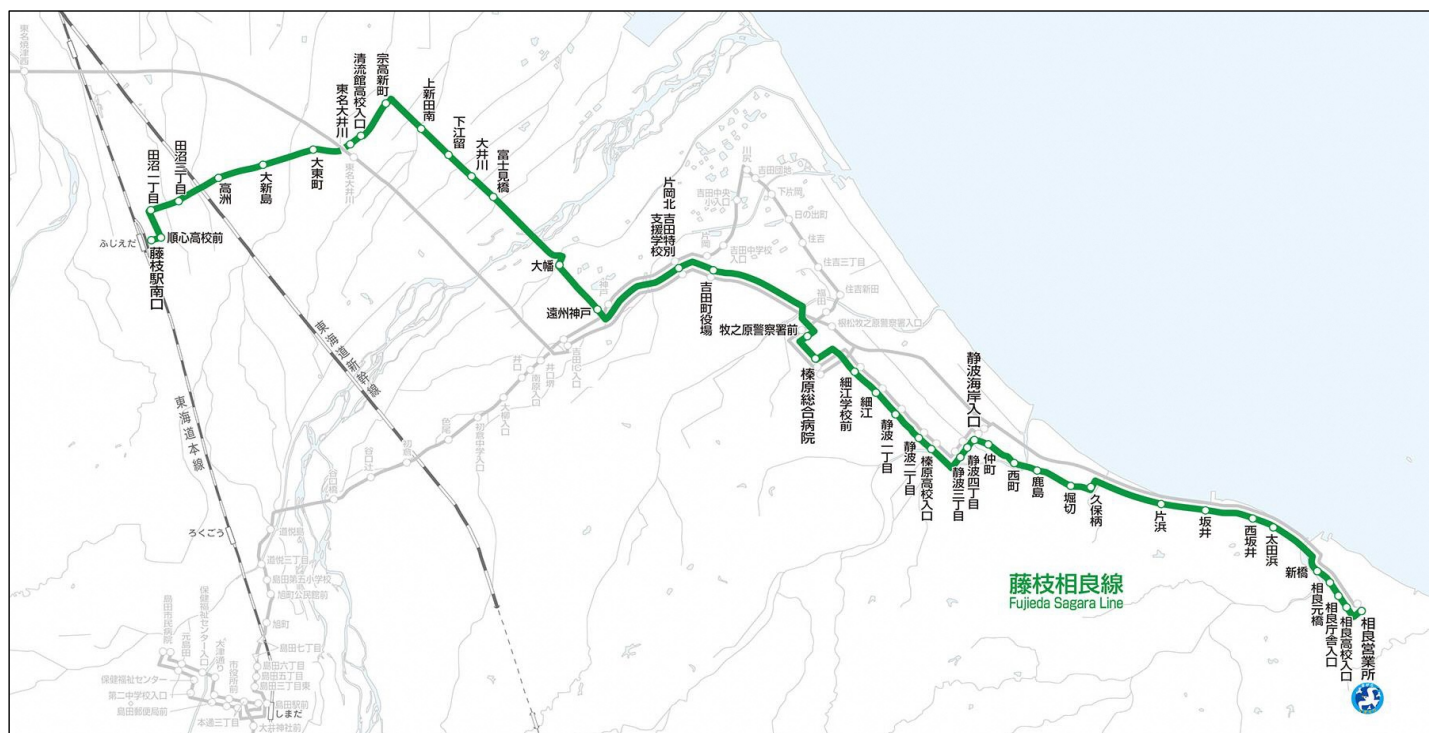
※運行経路図は別紙参照

3. 実施日

令和2年10月25日（日）予定

※新営業所運用開始に合わせて実施

以上



■延伸区間詳細図

